

令和元年度

本宮市教育委員会の事務に関する
点検・評価報告書
(平成30年度事業)

本宮市教育委員会

目次

I	点検・評価制度の概要	
1	目的	1
2	対象事業	1
3	実施方法	1
4	学識経験者の知見の活用	2
II	平成30年度評価対象事業一覧	3
III	学識経験者の意見	4
IV	点検・評価の結果	14
1	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実	
(1)	人とのかかわりを通じた豊かな心の育成	
①	保育所事業	15
②	幼稚園管理運営事業	17
③	幼稚園読書活動推進事業	19
④	ブックスタート事業	20
(2)	体を動かす遊びを通じた健やかな体の育成	
①	保育所入所児健康づくり推進事業	21
②	幼稚園児健康づくり推進事業	23
(3)	一人一人の育ちにあった教育の推進	
①	障がい児保育事業（保育所）	25
(4)	ニーズに応じた地域子育て支援の充実	
①	一時保育事業（保育所）	26
②	延長保育事業（保育所）	28
③	預かり保育事業（幼稚園）	29
④	地域子育て支援拠点事業（センター型）	30
2	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実	
(1)	人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成	
①	キャリア教育推進事業	31
②	体験活動促進事業	32
③	小学校読書活動推進事業	33
④	中学校読書活動推進事業	34
⑤	小学校文化芸術分野各種大会・交流行事参加事業	35
⑥	中学校文化芸術分野各種大会・交流行事参加事業	36
⑦	スクールソーシャルワーカー配置事業	38
⑧	学校復帰支援事業	40
(2)	思考力・判断力・表現力と課題解決能力の育成	
①	学力向上対策事業	42
(3)	心身の健全な成長を目指す教育の推進	
①	小学校児童健康づくり推進事業	44
②	中学校生徒健康づくり推進事業	46
(4)	子ども一人一人の障がいの状態や発達段階に応じた指導の充実	
①	特別支援教育支援員配置事業	47
(5)	震災の教訓を踏まえた地域とつながる特色ある教育の推進	
①	小中学校学校教育事業等助成事業	48
②	通園通学支援事業	50

3	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援	
	(1) 共に学び、一人一人が輝く生涯学習の推進	
	① 成人教育事業	51
	② 女性教育事業	53
	③ 高齢者教育事業	54
	(2) 健康で活力ある人生につながる生涯スポーツの推進	
	① 市民競技力向上対策事業	55
	② スポーツ推進委員活動事業	56
	(3) 「本と友だちになれるまち もとみや」を目指した活動の推進	
	① しらさわ夢図書館運営事業	57
	(4) 学校と地域を結ぶ社会教育活動の充実	
	① 青少年健全育成推進大会事業	59
	② 放課後子ども教室推進事業	60
	(5) 文化や芸術に親しみ活動する機会の充実	
	① 文化芸術行事開催事業	61
	(6) 本宮市の歴史と文化の継承と発信	
	① 文化財・史跡保存事業	63
4	安全で安心して学べる教育環境の確保	
	(1) 安全な教育施設の整備	
	① 学校施設等耐震化推進事業	64
	(2) 安全・安心な教育環境の確保	
	① 学校給食放射性物質検査事業	65
○	教育委員会運営事業	66

I 点検・評価制度の概要

1 目的

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとされている。

本宮市教育委員会では、同法の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすため、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行に係る点検評価（以下「点検評価」という。）を実施するものである。

2 対象事業

本市では、教育基本法第17条第2項に基づき、市の実情に応じた教育の振興に関する施策の総合的・計画的な推進を図るため、平成25年度に「本宮市教育振興基本計画」（以下「教育振興基本計画」という。）を策定した。

点検評価の対象事業は、教育振興基本計画の施策体系に基づき、平成30年度教育委員会重点施策に位置付けた事業を対象とした。

3 実施方法

点検評価の実施にあたっては、対象事業の実施状況を明らかにするとともに、今後における課題・改善点を示し、自己評価を行った。

なお、評価基準については、自己評価による事務事業のランク分けをわかりやすくするため、S・A・B・Cの4段階とする見直しを行った。

ランク	評価基準
S	目標を大きく上回って達成した。 事務事業として計画を大きく上回る成果を挙げた。
A	目標を上回って達成した。 事務事業として計画を上回る成果を挙げた。
B	目標のとおり達成した。 事務事業として計画通りの成果が挙げた。
C	目標を下回った。 事務事業として計画通りの成果が挙げられなかった。

4 学識経験者の知見の活用

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項の規定による学識経験を有する方の知見の活用については、外部の学識経験者で構成する本宮市教育事務評価委員会を設置し、教育委員会の自己評価及びその評価方法に対する評価や、今後の教育行政に向けての意見を聴いた。

○本宮市教育事務評価委員会委員

	委員名	関係所属等
委員長	小澤 悌一	学校教育関係
副委員長	角田 恒雄	学校教育関係
委員	佐藤 カネ子	文化団体関係
委員	桜井 弘和	社会体育関係
委員	武田 和洋	保護者代表

II 平成30年度評価対象事業一覧

基本目標	施策	事業名	評価	課等	係	頁	
I 子どもの主体性を育てる幼児教育の充実	1 人とのかかわりを通じた豊かな心の育成	保育所事業	B	幼保学校課	幼保教育係	15	
		幼稚園管理運営事業	B	幼保学校課	幼保教育係	17	
		幼稚園読書活動推進事業	B	幼保学校課	幼保教育係	19	
		ブックスタート事業	B	白沢公民館	社会教育係	20	
	2 体を動かす遊びを通じた健やかな体の育成	保育所入所児健康づくり推進事業	B	幼保学校課	幼保教育係	21	
		幼稚園児健康づくり推進事業	B	幼保学校課	幼保教育係	23	
	3 一人一人の育ちにあった教育の推進	障がい児保育事業(保育所)	B	幼保学校課	幼保教育係	25	
	4 ニーズに応じた地域子育て支援の充実	一時保育事業(保育所)	B	幼保学校課	幼保教育係	26	
		延長保育事業(保育所)	B	幼保学校課	幼保教育係	28	
		預かり保育事業(幼稚園)	B	幼保学校課	幼保教育係	29	
		地域子育て支援拠点事業(センター型)	A	幼保学校課	幼保教育係	30	
	II 子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実	1 人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成	キャリア教育推進事業	B	幼保学校課	学校教育係	31
体験活動促進事業			B	幼保学校課	学校教育係	32	
小学校読書活動推進事業			C	幼保学校課	学校教育係	33	
中学校読書活動推進事業			B	幼保学校課	学校教育係	34	
小学校文化芸術分野各種大会・交流行事参加事業			B	幼保学校課	学校教育係	35	
中学校文化芸術分野各種大会・交流行事参加事業			B	幼保学校課	学校教育係	36	
スクールソーシャルワーカー配置事業			A	幼保学校課	学校教育係	38	
学校復帰支援事業			A	幼保学校課	学校教育係	40	
2 思考力・判断力・表現力と課題解決能力の育成		学力向上対策事業	C	幼保学校課	学校教育係	42	
3 心身の健全な成長を目指す教育の推進		小学校児童健康づくり推進事業	B	幼保学校課	学校教育係	44	
		中学校生徒健康づくり推進事業	A	幼保学校課	学校教育係	46	
4 子ども一人一人の障がいの状態や発達段階に応じた指導の充実		特別支援教育支援員配置事業	B	幼保学校課	学校教育係	47	
5 震災の教訓を踏まえた地域とつながる特色ある教育の推進		小中学校学校教育事業等助成事業	B	幼保学校課	学校教育係	48	
		通園通学支援事業	B	幼保学校課	学校教育係	50	
III 未来を創造して、生きがいにつながる生涯学習への支援		1 共に学び、一人一人が輝く生涯学習の推進	成人教育事業	B	中央公民館	社会教育係	51
			女性教育事業	C	中央公民館	社会教育係	53
			高齢者教育事業	B	中央公民館	社会教育係	54
	2 健康で活力ある人生につながる生涯スポーツの推進	市民競技力向上対策事業	B	生涯学習センター	社会体育係	55	
		スポーツ推進委員活動事業	A	生涯学習センター	社会体育係	56	
	3 「本と友だちになれるまち もとみや」を目指した活動の推進	しらさわ夢図書館運営事業	B	白沢公民館	社会教育係	57	
	4 学校と地域を結ぶ社会教育活動の充実	青少年健全育成推進大会事業	B	生涯学習センター	社会教育係	59	
		放課後子ども教室推進事業	B	生涯学習センター	社会教育係	60	
	5 文化や芸術に親しみ活動する機会の充実	文化芸術行事開催事業	A	生涯学習センター	文化振興係	61	
	6 本宮市の歴史と文化の継承と発信	文化財・史跡保存事業	B	生涯学習センター	文化振興係	63	
IV 安全で安心して学べる教育環境の確保	1 安全な教育施設の整備	学校施設等耐震化推進事業	B	教育総務課	教育施設係	64	
	2 安全・安心な教育環境の確保	学校給食放射性物質検査事業	B	幼保学校課	学校教育係	65	
		教育委員会運営事業	B	教育総務課	総務係	66	
		評価事業 38事業					

Ⅲ 学識経験者の意見

Ⅲ 学識経験者の意見

基本目標Ⅰ 子どもの主体性を育てる幼児教育の充実

【施策1】人とのかかわりを通した豊かな心の育成

《意見》

保育所・幼稚園管理運営事業では、保育士（臨時職員）の確保の困難や、0歳児の待機児童の発生等課題は抱えているものの、本市独自の幼保共通カリキュラムによる保育事業を展開、さらに、「すこやか子育て相談室」を通して自宅で子育てしている親に対しても子育て支援を行うなど、きめ細かな子育て支援は高く評価できる。また、職員に対し施設での乳幼児の事故防止に向け研修会を実施するなど危機管理体制等への配慮もなされており適切である。

さらに、本年度は待機児童対策として、白沢地区の3人の園長を1人とする園長兼務体制を実施したことも高く評価できる。

《課題》

今後無償化になると入所希望児童が増えることも予想され、また、0歳、1歳児を中心に年度途中でも入所させたい家庭もあり、保育士の確保等、働きたい母親の願いがかなうように努力を願いたい。

育児休業中に係る乳幼児数等の情報を関係部署との連携により把握し、10月1日の基準日における待機児童対策を早めに進められるよう努力願いたい。

《意見》

幼稚園読書活動推進事業では、各幼稚園の図書の購入を計画的に実施するとともに、読み聞かせや定期的に貸し出しを行うことで、子どもの読書への興味関心を高めるとともに、読書する習慣形成にもつながり適切である。

ブックスタート事業では、10ヶ月健診の機会を活用したブックスタート事業を中核に据えつつ、3～4ヶ月健診でのプレブックスタート、1歳6ヶ月と3歳児健診での読み聞かせ、さらに3歳児健診ではブックスタートプラスを実施するなど、本事業の充実を図っていることは評価できる。

特に読み聞かせは、他に誇れる事業の一つと思われる。小さいときから本に親しむことは、活字離れを防ぐうえでも、また、脳の発達にも大切であり、親子のふれあいとしてもよいことである。

《課題》

対象保護者へのアンケート調査等を実施し、ブックスタート事業の検証を試みる必要がある。

【施策2】体を動かす遊びを通した健やかな体の育成

《意見》

保育所入所児・幼稚園児健康づくり推進事業では、各施設とも、親子で楽しむ体操教室やわらべ歌教室、食育に関するお話会など多彩な活動を用意するなど、子どもの健康づくりに補助金が有効かつ適切に使われており評価できる。

《課題》

親子の触れ合いを通して楽しみながら、より一層の健康づくりの推進及び体力アップを図る為にも屋外での運動又は遊びへの工夫を期待したい。ただし、[課題・改善点]に記されているように、本事業が「被災地支援の補助事業」を活用しての事業であることから、補助が打ち切られた場合の対策を考えていく必要がある。

【施策3】一人一人の育ちにあった教育の推進

《意見》

障がい児保育事業では、低年齢のため障がい児と判断することが難しく、加えて親の理解を得るのも困難といった課題がある中、保育士の資格を持つ多くの支援員を配置し、障がい児保育に取り組むことで、スムーズな就学支援に繋げていることは評価できる。

《課題》

[課題・改善点]にもあるように、保健・福祉担当部署やSSWとの連携、さらには専門機関との連携も図りつつ、より充実した支援活動となるよう期待したい。特に、家族の育児不安の解消と就学への支援のために、保育士の確保を願いたい。

【施策4】ニーズに応じた地域子育て支援の充実

《意見》

一時保育、延長保育、預かり保育事業では、市民の行政に対する子育て支援への多様なニーズに適切に対応しており、子育て家庭（保護者）にとって力強い支援となっている。限られた予算と人員のもとでそれらのニーズに応えようとしている行政側の努力を評価したい。

《課題》

本事業を今後も継続し、更なる事業内容の充実を図っていくには、保育士不足を解決していかなければならない。一朝一夕に解決できる問題ではないが、今後も引き続き保育士の確保に努力してほしい。

《意見》

地域子育て支援拠点事業では、本事業を利用する保護者が年々増加の傾向にある。その背景には、本事業への市民への周知徹底はもとより、魅力ある事業内容の工夫によって利用者の理解が深まってきたためではないかと思われる。行政側の努力を高く評価し、自己評価Aは妥当である。

《課題》

最近では、親またはその関係者がしつけと称して幼い子どもを死に至らしめるという悲惨な事件が後を絶たない。残念なことではあるが、子どもをどう育てるかではなく、子どもの命をどう守るかが急務なのである。本市においてはこのような痛ましい事件は起きていないが、今後起こらないという保証はない。市行政はもとより、児相、警察等関係機関との密接な連携が強く求められる。

基本目標Ⅱ 子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実

【施策1】人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成

《意見》

キャリア教育推進事業では、「夢の教室事業」と銘打って著名人やその道で一流と呼ばれる人たちから様々なことを学ぶ機会を企画したり、昨年度の「全国へそのまち・こども交流事業」に替わる事業として「国内派遣交流事業」に小学生を派遣し、同年代の子どもたちとの交流の機会を与えるなど、子どもの感性や情操を豊かにし、生きる力の育成への積極的な取り組みは評価できる。

《課題》

「夢の教室事業」・「国内派遣交流事業」が今後も継続されることを希望したい。

あいさつ運動については各校で取り組んでいるが、市内放送での児童・生徒の呼びかけは、大人の文章を読んでいるようであるため、児童・生徒のことばで呼びかけてはどうか。

《意見》

体験活動促進事業では、例年通り「スキー体験教室」を実施、運動不足に陥りやすい冬場に屋外運動の機会を与えたいという行政の意図は理解できる。

《課題》

1千万円を超える事業費は県からの支出金。県が支出を止めれば本事業はどうなるのだろうか。市の予算でスキー教室に1千万円を確保することは可能だろうか。[課題・改善点]に記されているように、今後も本事業継続のための予算獲得に努めていただきたい。

《意見》

小・中学校読書活動推進事業では、図書の充足率が100%に達していないが、学校の図書充足率は9割に達していること、2名体制とした学校図書館司書の有効活用及び市立図書館との連携を図りながら多様な読書啓発活動を展開しており評価できる。ただ、小学校読書活動推進事業が自己評価Cとなっているが、その主な理由は貸出冊数の減少にある。小学校7校の貸出冊数の計を見ると、昨年度が33,048冊で今年度は26,257冊と、率にして2割強減少している。このことから、小学校読書活動推進事業の自己評価Cは妥当である。

《課題》

今後は、図書充足率100%の達成年度を目標値として設定し、目標が達成できるよう予算獲得に努力してほしい。

《意見》

小・中学校文化芸術分野各種大会・交流行事参加事業では、各種コンクールへの参加経費や負担金を支援することで、親の負担軽減はもちろん、学校・子どもの積極的な参加意欲にもつながっており、各種コンクールの実績がそのことを物語っている。特に小学校では、本宮まゆみ小がTBCこども音楽コンクールで東北大会出場を果たしたこと、中学校では、白沢中1年生が選挙啓発ポスターコンクールで文部科学大臣・総務大臣賞を受賞したことは喜ばしい限りである。

《意見》

S S W配置事業では、S S Wを市単独の通年雇用とし、就学前児童及び小中学生が抱える様々な諸問題に対し、子ども本人はもちろん、親や教師に対しても適切にアドバイスできるよう配慮しており、課題解決、経過良好の合計が半数近くに達していることなど、問題解決に大きく寄与していると評価できる。特に活動実績の中で、諸問題の件数が昨年度と比して全てに減少傾向にあることは望ましい傾向であり、本事業が着実に成果をあげている結果と言えよう。

《意見》

学校復帰支援事業では、本年度は5名の生徒が在籍し、内3名が学校復帰を果たすなど確実に成果をあげている。その背景には、昨年度まで週3日だった開設日を本年度から週5日に、さらに指導員を2名から3名にするなど、適応指導教室の充実を図った結果と考えられ、行政側の努力を高く評価したい。

《課題》

[課題・改善点]にも記されているように、問題なのは適応教室に通わずに長期欠席を続けている児童生徒への対応である。簡単に解決できる問題ではないので、保護者・学校・S S W及び専門機関等との連携を密にしながら、根気強く対応していくことが望まれる。

【施策2】思考力・判断力・表現力と課題解決能力の育成

《意見》

学力向上対策事業では、諸検査結果を分析し本市における問題点と課題を明らかにし、その結果をもとに年2回の学力向上委員会、中学校区ごとの研修会や授業研究会、さらに年5回の外部講師による研修会を開催し、各学校の学力向上に向けた取り組みを推進している。その結果、全国標準学力検査では小中学校とも全国平均を上回ったが、中学校は平均偏差値51と目標値を達成したものの、小学校では平均偏差値が53と市総合計画後期目標値(小学校54.0、中学校51.0)を達成することができなかった。加えてチャレンジ学習奨励補助事業では、利用者数が6割と横ばい状況にあり、目標の80%に達することができなかった。よって自己評価Cは妥当と言える。

《課題》

今後は[課題・改善点]に記されているように、アンダーアチーバーを対象とした学力の底上げを目指し、個別指導の徹底及び指導法の改善などさらなる努力を期待したい。

チャレンジ学習への受験料の補助額を引き上げ、目標値80%を達成するためにも、親の負担軽減を図る必要がある。児童生徒一人でも多く参加し、利用者数の目標値80%に達成できるようお願いしたい。

【施策3】心身の健全な成長を目指す教育の推進

《意見》

児童・生徒健康づくり推進事業では、各小中学校ともに市からの補助金を有効に活用し、小学校では「歯科・食育」に関する内容が、中学校では「食育」「性教育・薬物乱用」に関する内

容が多く取り上げられ、発達段階に応じた内容を適切に設定している。さらに、小中学校ともに「スポーツテスト」の実施に補助金を活用し体力テストを実施、その結果が昨年度を上回る等の成果をあげている。特に中学校では「A・B」判定の割合が目標値50%を超えており、自己評価Aは妥当である。

【施策4】子ども一人一人の障がいの状態や発達段階に応じた指導の充実

《意見》

特別支援教育支援員配置事業では、対象児童生徒の増加に伴い、支援員の数も増加し、一昨年度は10名、昨年度は14名、そして本年度は16名となっている。それに伴い当然のことではあるが、財政的負担も増加の一途をたどっている。このことは、行政が障がいをもつ児童生徒への支援を真剣に受け止めている表れとも言える。障がいを持つ子どもはどの学校にも在籍し、その子どもの親の多くは普通学級での生活を希望する。その結果、学校（担任）は一人の子どもに大きな労力と時間をかけることになる。本事業はそのような学校にとって大きな助けとなるとともに親にとっても安心して我が子を学校に通わせることができる。ゆえに、本事業の教育的価値は非常に高いと評価できる。

《課題》

障がいの様相は様々であり、一人の支援員が複数の子どもに対応しなければならない場合は要注意である。ゆえに支援員の数のみならず、子どもの障がいに適切に対応できるよう支援員の資質向上を図るとともに、できるだけ特別支援教育の有資格者の配置に努めることを期待したい。

【施策5】震災の教訓を踏まえた地域とつながる特色ある教育の推進

《意見》

小中学校学校教育事業等助成事業では、学校独自では予算的に実施不可能な活動も、本事業の補助金のおかげで親に負担をかけないで実施でき、様々な体験活動や講演会等を通して先人の貴重な話を聞いたり、様々な芸術に触れたり、子どもの豊かな心の成長に大きく貢献しているものと評価できる。

《課題》

新しい学習指導要領では、教育内容の主な改善点の一つに「地域の伝統や文化に関する教育の充実」があげられている。本事業「地域とつながる特色ある教育の推進」はその趣旨と一致する。とするならば、地域に脈々と伝わる民俗芸能や民話などその地域独特の伝統や文化を教育に取り込み、地域の一員としての自覚や誇りを子どもたちに持たせるような活動があってもよいのではないかと。

《意見》

通園通学支援事業では、園・学校内で起きる事故に比べ、通園通学時の事故が多いことから鑑みて重要な事業である。本事業に係る4千万円弱の財政負担は行政にとって大変であろうが、子どもたちの安全な通園通学のために今後も継続してほしい。

《課題》

通学路には危険な登校道路もあり、再検討を早急をお願いしたい。通学路の表示・人数等、交通安全に係る各機関に配付をお願いしたい。

基本目標Ⅲ 未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援

【施策1】共に学び、一人一人が輝く生涯学習の推進

《意見》

成人・女性・高齢者教育事業では、市民へのアンケート調査を実施し、他自治体を参考にするなどして魅力ある講座開設に努力している。また、満足度9割越えを得てリピーターを確保し、受講者の減少に歯止めをかけようとするなど、事業の成果を向上させようとする努力は評価できる。ただ、女性教育事業については自己評価がC評価となっている。その主な理由に「受講生の固定化」があげられており自己評価Cは妥当と言えよう。ただし、事業にかかる予算総額は年間6万3千円、この予算で果たして「広く成人女性の興味関心を持つような事業展開」が可能なのか疑問である。

《課題》

本事業の成果は、参加者数の多少ではなく参加者の事業への満足度である。受講者数を増やすことは大切であるが、それよりも受講者に受講して良かったと言ってもらえるような内容に少しでも改善し、それが口コミで広がり仲間が増えていくことを願う。

【施策2】健康で活力ある人生につながる生涯スポーツの推進

《意見》

市民競技力向上対策事業では、年一回ではあるが、一流アスリートから直接指導を受けることができ、受講者にとって貴重な体験になったことと思う。結果がすぐ出るものではないが、長い目で本事業の成果を見守りたい。

《課題》

個人競技も重要なスポーツである。予算的な問題はあるが、チーム競技のみが踏襲されることのないように配慮されたい。

《意見》

スポーツ推進委員活動事業では、委員各自職業を持ちながらの活動であるにもかかわらず、市・市教委主催事業及び自主開催事業に多くの委員が参加協力し、大会運営や役員協力を行ったことは高く評価できる。よって自己評価Aは妥当である。

《課題》

市民体力測定会など主催事業に市民の参加者が増えていくことを願う。

【施策3】「本と友だちになれるまち もとみや」を目指した活動の推進

《意見》

しらさわ夢図書館運営事業では、市民の読書活動・情報活動の拠点としての機能を十分に果

たすとともに、学校図書館とのネットワーク運用も定着し、幼児・児童生徒も含めた市民全体の読書活動推進の拠点として、その存在価値を高めている。さらに学校司書2名の巡回体制や読書活動ボランティア活動が読書活動推進事業を後押しし大きな戦力となっている。

《課題》

益々高まるであろう読書活動ボランティアへの対応を充実させるとともに、学校司書の更なる有効活用を図るべく人員の増を希望したい。

【施策4】学校と地域を結ぶ社会教育活動の充実

《意見》

青少年健全育成推進大会事業は、地域をあげて子ども達の健全育成を図っていくことを市民みんなで再確認することが大きなねらいであり、市民総ぐるみ運動の一環でもある。300名という多くの参加者のもと開催されたことは評価できる。さらに本年度は新しい試みとして大会内容に「講演」を企画し、しかも講演内容が参加者の大部分を占める児童生徒を対象にした内容になっており適切である。昨年度、「少年の主張」を「青少年の主張」とし、大学生や若い社会人にも参加してもらい、その考えを小中学生に聞かせることも意義があると提言したが、今回その提言が「講演」という形で実現できたことは高く評価したい。

《課題》

大変素晴らしい「講演」であったことから、今回だけで終わることなく、今後の大会に継続されることを願う。

《意見》

放課後子ども教室推進事業では、児童数減少にもかかわらず参加者が年々増加していることから、本事業が子ども・親から一定の評価を得ていることがわかる。そこには、地域の方々との触れ合いや子どもたちにとって楽しい活動があるからであり、遊友クラブ運営委員会及び本事業を支えるボランティア協力員の努力を評価したい。

《課題》

希望する子どもが増えればそれだけリスクも増える。安全安心な居場所であるためには、活動支援員や安全管理員の存在が欠かせない。今後も活動支援員や安全管理員の確保及び資質向上に努めてほしい。

【施策5】文化や芸術に親しみ活動する機会の充実

《意見》

音楽、劇、映画、民俗芸能、作品展示、かるた大会など内容が多岐にわたり、さらに毎年内容を変えマンネリ化に陥らないように配慮するなど、事業関係者側の努力が伺える。参加者数が一定水準確保できていること、参加した市民へのアンケート調査が高い満足度を示していることから本事業の自己評価Aは妥当である。

《課題》

今後も、子どもから高齢者まで幅広く親しめる内容を提供できるよう、より一層の努力を期

待したい。

【施策6】本宮市の歴史と文化の継承と発信

《意見》

郷土の文化財・史跡を保存し後世に伝えていくことは大切な事業であり、年次計画に基づき計画的かつ適切に事業が実施されている。

《課題》

既存の文化財の維持管理はもちろんのこと、新しい遺跡の更なる発掘にも力を入れてほしい。さらに、それぞれの施設が持っている素晴らしさのPRに努めてほしい。

活動実績において、調査等実施した後の報告がされていないことから、調査結果がまとまり次第、報告されることを望む。

基本目標Ⅳ 安全で安心して学べる教育環境の確保

【施策1】安全な教育施設の整備

《意見》

学校施設等耐震化推進事業では、学校施設等の耐震化事業が計画通り着実に進行しており評価できる。

《課題》

教育施設は避難施設として一般市民にとっても重要な場所である。近年、地震や異常気象が多発し「かつて経験したことのない～」といった文言が気象庁から出されることが多くなった。備えあれば憂いなしである。緊急避難場所という視点から教育施設の更なる安全管理に努めてほしい。

【施策2】安全・安心な教育環境の確保

《意見》

学校給食放射性物質検査事業では、すべての給食について食材ごと、一食丸ごとの検査を行い、10ベクレル未満という厳しい基準での検査は保護者の理解を得るのに十分である。さらに、市のホームページに結果を公表し、保護者の給食への不安解消に努めており評価できる。

《課題》

検査にかかる財政的な負担は大きい。今後も国・県や他市町村の動向を注視しながら検査体制の在り方について検討を加えていく必要がある。

原発事故により放射性物質検査がクローズアップされがちであるが、食中毒の防止、アレルギー問題への対応も看過できない。安全安心な学校給食を目指し、さらなる食管理の徹底を望む。

総 括 的 意 見

○本報告書に示された38事業が、平成26年度からスタートした「本宮市教育振興基本計画」に則り適切に実施されていることを評価する。

その中でも、以下の2点は本市教育行政の特筆すべき事業として評価できる。

①充実した「子育て支援」事業

様々な事業形態を導入し市民のニーズに応じた多様なサービスを提供している。

結果、社会問題化している待機児童の解消や幼い子どもを抱える親世代への充実した支援など、大きな成果をあげていること。

②「本とともだちになれるまち もとみや」をスローガンに掲げ、乳幼児から大人までを対象に、その発達段階をふまえながらきめ細かな読書啓発に取り組んでいること。

○自己評価の基準が4段階であることは変わらないが、その基準内容は変化している。

当初は「A-~~B~~-C-D」でBが普通評価、次に「S-~~A~~-B-C」でAが普通評価、そして本年度から「S-A-~~B~~-C」は変わらないがBを普通評価とした。

この判定基準の変化から、自己評価基準を厳しくし、事業内容を謙虚に見直そうとする教育委員会事務局の意図が読み取れる。

過去、再三にわたって「総括的意見」として述べてきたことであるが、評価はランク付けをすることだけが目的ではない。次に生かすためにあることを肝に銘じて欲しい。

○随所に保育士・支援員・ボランティアなどの人材不足が課題としてあげられ、事業を推進していく上で大きな障害になっている。この傾向は益々顕著になることから、その解決に向けた対策が喫緊の課題である。

○次年度（令和元年）からは、新たに策定された「本宮市教育振興基本計画」に則り実施される。今まで積み重ねてきた業務実績を土台に関係する全ての部署において基本計画に則った実践が適切に実施されることを期待したい。

特に、幼稚園・小中学校においては、新しい指導要領による教育実践が、幼稚園では既に始まっており、小学校では令和2年度から全面実施となる。指導要領改訂の趣旨を十分に踏まえた教育実践が展開されることを切望する。

○教育委員会所属の職員が増えてきていることは、それだけ地域住民のニーズに応じていけるということだと思う。連携を密にして充実した教育行政が行われることを期待したい。

○本宮市は全国住みよさランキングが11年連続で県内トップをアピール材料として有効に活用すべき。

地元愛を育むために、伝統文化継承にもっと力を入れていただきたい。例えば進学のため市外に転出しても、いずれ戻ってくるような魅力ある本宮市になるために、積極的に多文化に触れるなど、本市の良さを客観的に見ることのできる教育の充実を図っていただきたい。

IV 点検・評価の結果

基本目標	I	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	1	人とかかわりを通した豊かな心の育成
事業名	1	保育所事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

保護者が就労等により昼間保育することができない就学前の児童を、市内の5か所の保育所で保育する。

[目的]

対象： 就労等により、昼間、児童を保育できない保護者
(何を・誰を)

意図： 就労等により昼間、児童を保育できない保護者に代わり、保育所で保育する。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	145,863
財源	
国庫支出金	2,540
県支出金	4,427
その他	72,441
一般財源	66,455

[事務事業の活動実績]

○入所児童数

(4月1日現在)

保育所名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
第1保育所		23人	18人	20人	23人	23人	107人
第2保育所	11人	18人	17人	20人	24人	20人	110人
第3保育所			12人	19人	26人	23人	80人
五百川幼保総合施設	12人	38人	46人	64人			160人
白沢保育所	8人	29人	18人	20人			75人
合計	31人	108人	111人	143人	73人	66人	532人

(3月1日現在)

保育所名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
第1保育所		22人	18人	20人	23人	23人	106人
第2保育所	12人	18人	17人	20人	24人	20人	111人
第3保育所			12人	20人	28人	25人	85人
五百川幼保総合施設	11人	34人	43人	58人			146人
白沢保育所	9人	29人	17人	19人			74人
合計	32人	103人	107人	137人	75人	68人	522人

○待機児童数

(4月1日基準日)

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
待機児童数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

(10月1日基準日)

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
待機児童数	32人	7人	7人	6人	0人	0人	52人

[事業の成果]

日中、仕事や介護、病気などを理由に子供の面倒を見る事が出来ない保護者(保育に欠ける児童)に対し、保育所で子供を保育することにより、子育て支援の一助となっている。

0歳から就学前までの乳幼児を受け入れ、発達の連続性を考慮した「幼保共通カリキュラム」を基に保育をしている。発達に必要な経験を積み重ねることで、人とかかわる楽しさや大切さに気づいたり、基本的生活習慣を身に付けることができている。

また、子どもたちを預かる保育所では、特有の多くのリスクを抱えており、万が一の事故やトラブルが生じた場合の危機管理体制等について研修を実施し、人材育成と保育の質の向上を図ることを目的とする職員研修会を計画的に実施した。

待機児童の発生状況については、国の公表基準日である4月1日現在では発生しなかったが、育児休業満了による入所申込みが増加し、同じく基準日である10月1日現在では待機児童が発生している。

[課題・改善点]

- ・昨年度に引き続き、保育士（臨時職員）の確保には苦慮している。保育士の養成機関への要請や、地域情報誌への掲載を行い、保育士の確保に努力した。
- ・入所希望児童の受け入れは可能な限り行っているが、0歳児に関しては育児休暇満了に伴う申し込みが増加傾向にあり、年度途中から数十名の待機児童が発生している。今後の保育需要の伸びに対応するためにも、市内認可外保育所の認可への支援や公立施設整備事業の取り組みに努める。

自己評価

B

[自己評価判断理由] 担当課長

ここ数年保育需要は大きく増加傾向にあり、年度途中において待機児童が発生しているが、保育士の確保や認可保育所への移行支援を継続し、年度当初においては待機児童がなかった。

[教育長又は教育部長評価]

社会状況の変化による保育ニーズの高まりにより、年度途中で待機児童が発生したが、その解消に向けた保育士の人材確保に鋭意努力し、年度当初は、待機児童が発生していないことについて評価する。

また、保育の質の向上や危機管理体制について、計画的に職員研修を行い、管理体制の充実を図っていることを評価する。

基本目標	1	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	1	人とのかかわりを通した豊かな心の育成
事業名	2	幼稚園管理運営事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

教育内容の充実と教育環境の整備に努め、市内5か所で4、5歳児を対象とした幼稚園を運営する。

[目的] 対象： 公立の幼稚園児、公立幼稚園
(何を・誰を)

意図：
(事業のねらい、対象園児が安心して幼稚園に通い、学べる環境づくりを推進する。をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	22,464
財源	
使用料及び手数料	11,995
その他	856
一般財源	9,613

[事務事業の活動実績]

○入園児童数 [平成31年3月1日現在]

幼稚園名	4歳児	5歳児	合計
五百川幼保総合施設	63人	57人	120人
岩根幼稚園	32人	50人	82人
糠沢幼稚園	23人	14人	37人
和田幼稚園	21人	11人	32人
白岩幼稚園	17人	20人	37人
合計	156人	152人	308人

○幼稚園保育料の減免措置

*市独自減免額 (30年度前期) (上段：園児数、下段：減免額) 単位：人、円

階層区分	減免対象園児			計
	第1子	第2子	第3子以降	
市民税非課税世帯及び 市民税所得割非課税世帯	7 105,000	0 0	0 0	7 105,000
上記区分以外の世帯	0 0	6 180,000	0 0	6 180,000
合計	7 105,000	6 180,000	0 0	13 285,000

*市独自減免額 (30年度後期) (上段：園児数、下段：減免額) 単位：人、円

階層区分	減免対象園児			計
	第1子	第2子	第3子以降	
市民税非課税世帯及び 市民税所得割非課税世帯	5 105,000	0 0	0 0	5 105,000
上記区分以外の世帯	0 0	6 168,000	0 0	6 168,000
合計	5 105,000	6 168,000	0 0	11 273,000

低所得者及び、保育所・幼稚園に同時に通所通園する場合の第2子以降がいる世帯の保護者の負担軽減を図るため、幼稚園保育料の減免を行った。

○すこやか子育て相談室

幼稚園・保育所に通わないで、自宅で子育てをしている保護者の悩みや困りごとについての相談に応じるため、「すこやか子育て相談室」を実施している。

また、通常の保育状況を参観し、子育ての参考にしてもらい保育参観や、季節の行事へ参加を呼びかけ、幼稚園・保育所へ通わない世帯への支援を行った。

[事業の成果]

4、5歳児の就学前までの幼児を受け入れ、「幼保共通カリキュラム」に基づき、幼児の個性や発達段階を考慮しながら教育・保育を実践している。また、幼稚園生活を通して、生きる力の基礎となる心情・意欲・態度を育成し、スムーズな就学移行が図られた。さらに、待機児童対策の一つとして保育士の確保の観点から、平成30年度より白沢地区の3人の園長を1人体制とした。

[課題・改善点]

- ・昨年度に引き続き、保育士同様に幼稚園教諭（臨時職員）の確保には苦慮している。幼稚園教諭の養成機関への要請行動や、地域情報誌への掲載を行った。
- ・白沢地区の3幼稚園において、園長を1人体制とし3幼稚園の兼務とした。待機児童対策のため暫定の措置としているが、保護者の不安の声があった。対応として事務員の配置や副園長の設置を実施した。

自己評価

B

[自己評価判断理由] 担当課長

市内5か所の幼稚園における園児数の差が生じているが、園児が安心して通い学べる環境づくりのため、本市独自の共通カリキュラムによる保育により、適切な保育ができている。また、園長兼務体制は、職員の努力により以前同様の園経営ができている。

[教育長又は教育部長評価]

本市独自の幼保共通カリキュラムにより、幼児の個性や発達段階を考慮した幼児教育が適切に行われている。また、待機児童解消対策としての白沢地区の園長の兼務体制については、職員の努力により、健全な園経営ができていることを評価する。

基本目標	I	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	1	人とのかかわりを通じた豊かな心の育成
事業名	3	幼稚園読書活動推進事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

幼稚園児に絵本の読み聞かせや貸し出しを行い、お話の世界にたくさん触れさせるなど、読書習慣の形成を支援する。

[目的]

対象： 市立幼稚園の園児
(何を・誰を)

意図： 読書に対する興味を深め読書習慣を身につけることにより、日常生活に必要知識や幅広い想像力を高めるとともに、豊かな感性を養う。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	146
財源	
一般財源	146

[事務事業の活動実績]

幼稚園児に絵本の読み聞かせを行うなど、授業で活用した。

幼稚園名	購入冊数
五百川幼保総合施設	26冊
岩根幼稚園	19冊
糠沢幼稚園	19冊
和田幼稚園	20冊
白岩幼稚園	24冊

[事業の成果]

読み聞かせや、定期的な貸し出しを行うことにより、読書に対する興味を深め読書習慣を身につけ、日常生活に必要な知識や幅広い想像力を高めるとともに、豊かな感性を養えた。また、保護者からは週末の絵本貸出により、子どもが本に興味を持ち、読み聞かせをする機会が増えるので大変良いと好評である。

[課題・改善点]

年次計画により、司書と連携しながら図書の更新を図って、優良な図書の選定を行っている。

自己評価
B

[自己評価判断理由] 担当課長

図書の購入は、毎年一定数を更新することができていること、また、学校司書の指導により読み聞かせなどの読書指導が充実してきており、読書習慣が着実に身につけると推測される。

[教育長又は教育部長評価]

担任や学校司書による日常的な読み聞かせと週末の定期的貸し出しは、読書の習慣化と家庭読書の推進につながっていると考えられる。豊かな感性と創造性あふれる人材育成に寄与したと評価する。

基本目標	I	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	1	人とのかかわりを通じた豊かな心の育成
事業名	4	ブックスタート事業
担当課		生涯学習センター（白沢公民館）

[事業概要]

10か月健診の際に、親子に対して読み聞かせを行い、読書活動啓蒙のために2冊の絵本とパンフレット（バッグ付き）のプレゼントを実施する。

[目的]

対象： 10か月児・保護者
(何を・誰を)

意図： 子どもが乳児期から絵本による語りかけを行い、子供の発達に合わせた本との関わりを持たせる。保護者に対しては、成長に合わせた読書の必要性の理解を図る。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	806
財源	
一般財源	806

[事務事業の活動実績]

○ 10か月健診に合わせて、毎月1回実施した。

開催日	人数(人)	会場	
4月26日(木)	16	えぽか	
5月24日(木)	20		
6月28日(木)	24		
7月26日(木)	15		
8月30日(木)	20		
9月13日(木)	13		
10月25日(木)	21		
11月29日(木)	21		
12月20日(木)	12		
1月31日(木)	19		
2月28日(木)	25		
3月28日(木)	19		
合計	225		

[事業の成果]

当該事業を本宮市では合併当初から実施しており、全国的には1,741団体のうち1,050団体が実施している(2019年7月31日現在 NP0ブックスタート調べ)。事業の結果、親子の絆が深まり、喜びが感じられる子育てにつながるものと思われる。また、図書館の利用機会増加への効果も期待できる。

さらに、子育て初期の親子の絆の形成や情緒安定のため、3・4か月健診時にわらべ歌の普及等を行うプレブックスタート、ブックスタート後のフォローアップとして1歳6か月及び3歳児健診で読み聞かせを行い、3歳児健診時には読み聞かせや絵本を選ぶ手助けとなるパンフレットを配布するブックスタートプラスを実施した。

[課題・改善点]

ブックスタート事業は、読書のきっかけとなるのみならず、幼児期の親子の触れ合いの機会を提供する、様々な子育て支援団体との繋がりを形成するといった複合的な効果が認められることから、引き続き本事業を展開する必要がある。

自己評価
B

[自己評価判断理由] 担当課長

本事業は、合併当時から実施している取り組みであり、子どもに読み聞かせをする良い機会となっている。また、親が子どもに対する読書の重要性を認識する機会となるとともに、乳幼児期の親子の触れ合いの場の提供といった役割を果たしている。

[教育長又は教育部長評価]

子どもが初めて本と出会い、本に親しむ第一歩となる事業である。乳児期の絵本の読み聞かせの重要性を保護者が理解し、親子で本に親しむ機会を作ることで、読書の習慣のみならず親子の絆を深めることにもつながっているものと評価する。

基本目標	1	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	2	体を動かす遊びを通した健やかな体の育成
事業名	1	保育所入所児健康づくり推進事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

体験的活動を通し、豊かな心と健全な体を育むための特色を生かした健康づくり活動を行う。

[目的] 対象： 公立・私立保育所幼児
(何を・誰を)

意図：
(事業のねらい、対象をどう変えるのか) 楽しく運動し健康増進を図る。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	400
財源	
県支出金	400

[事務事業の活動実績]

学校健康づくり推進事業補助金をPTA団体に一律50,000円を交付し、豊かな心と確かな体力づくり活動の支援を行った。

○活動内容

公立保育所	主な活動
第1保育所	・食育に関するお話し会を開催し、絵本・紙芝居・パネルシアターなどを通し、身近な野菜や料理に興味関心を持つことが出来た。 ・親子体操教室を開催し、それぞれの発達に応じて、楽しく体力増進を図ることが出来た。
第2保育所	・食育講座を開催し、食べたものがどのように体に作用していくのかを学び、好き嫌いをなく食べる大切さを知ることが出来た。 ・親子体操教室を開催し、親子でスキップを図りながら、動きの一つ一つが体のどの筋肉を鍛えるか等学ぶことが出来た。
第3保育所	・水泳教室を開催し、友達と触れ合いながら水に慣れ、活発に遊び、体力づくりが出来た。 ・わらべうた教室を開催し、昔遊びをしながら楽しく体を動かすことが出来た。
五百川幼保総合施設	・親子体操教室を開催し、親子一緒に体を動かす楽しさを体験し体力向上に対する意識付けを行う事が出来た。 ・親子体操教室を基に体操教室を実施し、全身を使う表現遊びを通じて体を動かす事への楽しさを養うことが出来た。
白沢保育所	・親子体操教室を開催し、わらべうた・絵本・歌などに合わせて、発達に必要な動きを体験することが出来た。 ・親子わらべうた教室を開催し、触れ合い遊びの大切さを学ぶことが出来た。

私立保育所	主な活動
もとみや幼児の家	・親子で安達太良山登山を行い、体力増強を図ることが出来た。 ・親子でスポーツを行い、健康づくりにつなげることが出来た。
どんぐり保育園	・玉入れ用のカラーボールを購入し、保育活動の中で健康と体力づくりに活用した。
光明保育園	・キッズヨガの講師を招聘し、音楽に合わせて楽しく運動を行う事が出来た。

[事業の成果]

放射線などの影響を心配する保護者の不安を考慮し、屋内活動の充実を目的としてきたが、放射線の心配も少なくなり屋外の活動も実施している。各施設とも毎年工夫を凝らし、様々な活動を展開している。

[課題・改善点]

健康増進のための運動については、今後も幼児の健康増進に寄与できるよう事業を展開していく。事業実施にあたっては、被災地支援の補助事業を活用しており、今後、財源の確保の検討が必要となる。

自己評価

B

[自己評価判断理由] 担当課長

保育所入所児の運動機会の充実を図るため実施している事業であり、各施設が工夫を凝らし事業を実施している。

[教育長又は教育部長評価]

本補助金により、各施設の実情に合わせた事業を展開している。幼児の体力低下が懸念される昨今、様々な運動や食育事業が行われ、幼児の健やかな成長と健康づくりに寄与していることを評価する。

基本目標	1	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	2	体を動かす遊びを通じた健やかな体の育成
事業名	2	幼稚園児健康づくり推進事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

体験的活動を通し、豊かな心と健全な身体を育むための特色を生かした健康づくり活動を支援する。

[目的]

対象： 公立・私立幼稚園児
(何を・誰を)

意図：
(事業のねらい、対象をどう変えるのか) 楽しく運動し健康づくりを行う。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	300
財源	
県支出金	300

[事務事業の活動実績]

学校健康づくり推進事業補助金を幼稚園PTA団体に一律50,000円を交付し、豊かな心と確かな体力づくり活動の支援を行った。

○活動内容

公立幼稚園名	主な活動内容
五百川幼保総合施設	・親子体操教室を開催し、家庭においても楽しみながら体力向上につながる運動を学ぶことが出来た。 ・園児のみでの体操教室を実施し、発達に沿った様々な動きを体験しながら、進んで体を動かす意欲を養う事が出来た。
岩根幼稚園	・体操教室を実施し、軽快なリズムで行うことで体を動かす意欲を養うことが出来た。 ・食育教室を開催し、何でも食べようとする気持ちにつなげることが出来た。
糠沢幼稚園	・親子体操教室を開催し、物を使わなくても運動が楽しめることを学ぶことができた。 ・わらべうた教室を祖父母参観時に開催し、祖父母と一緒に遊ぶことの楽しさを感じる事が出来た。
和田幼稚園	・親子体操教室を開催し、将来にわたる健康な体づくりを考えていく機会になった。 ・わらべうた教室を開催し、様々な活動を通して楽しんで身体を動かすことが出来た。
白岩幼稚園	・食育教室を開催し、食べ物大切さや体によい食べ物など、丈夫な体づくりのための食育を学ぶことができた。 ・親子体操教室を開催し、親子で体を動かす楽しさや心地よさを味わえる機会になった。

私立幼稚園名	主な活動内容
本宮幼稚園	・健康増進のため、歯磨き指導を受けたことにより、歯科衛生の重要さと正しい歯磨きを学ぶことが出来た。 ・健康増進のため内科検診を実施した。

[事業の成果]

放射線などの影響を心配する保護者の不安を考慮し、屋内活動の充実を目的としてきたが、放射線の心配も少なくなり屋外の活動も実施している。各施設とも毎年工夫を凝らし、様々な活動を展開している。また、発達の段階に合わせた体を使った親子での体操教室や歯の重要性の啓発などの健康づくりができた。

[課題・改善点]

健康増進のための運動については、今後も園児の健康増進に寄与できるよう事業を展開していく。事業実施にあたっては、被災地支援の補助事業を活用しており、今後、財源の確保の検討が必要となる。

自己評価

B

[自己評価判断理由] 担当課長

幼稚園児の運動機会の充実を図るため実施している事業であり、各施設が工夫を凝らし事業を実施している。

[教育長又は教育部長評価]

本補助金により、各施設の実情に合わせた事業を展開している。幼児の体力低下が懸念される昨今、様々な運動や食育事業などが行われ、幼児の健やかな成長と健康づくりに寄与していることを評価する。

基本目標	1	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	3	一人一人の育ちにあった教育の推進
事業名	1	障がい児保育事業（保育所）
担当課		幼保学校課

[事業概要]

発達障がい児等を受け入れ、児童の心身の発達に合わせた保育援助を行う。

[目的] 対象： 就労等により家庭で十分保育することができない、集団保育可能な就
(何を・誰を) 学前の障がい児の保護者
 意図： 障がい児担当の保育士を配置し、障がいの程度に見合った保育を行う
(事業のねらい、対象をどう変えるのか) ことで、障がい児の心身の発達を促し、保護者の育児不安解消や負担軽減を図る。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	8,229
財源	
その他	16
一般財源	8,213

[事務事業の活動実績]

担当保育士を配置し、障がいの程度に見合った保育を行い、保護者との連携を図り、障がい児保育を行った。

○障がい児保育児童（実人数）

施設名	第1保育所	第2保育所	第3保育所	五百川幼保	白沢保育所	合計
人数	4	2	0	2	0	8

[事業の成果]

障がい児を支援するため障がいの程度に見合った保育を行っている。また、保護者との連携を深めながら、育児不安の解消や負担軽減に努めている。
 また、学校との情報共有を密にし、スムーズな就学支援に努めている。

[課題・改善点]

対象年齢が低年齢であり、入所の段階で障がい児と判断するのが非常に難しいのが現状である。また、心身の発達も途上であるため、児童の状況等について保護者の理解を得るのが難しく苦慮しているため、より一層の保護者との連携が必要である。
 さらには、保健担当部署、福祉担当部署及びSSWとの連携も密にしながら、入所児童への適切なサポート体制を図ると共に、学校との情報共有により就学時における適切な支援と保護者の不安解消に努めている。
 担当保育士の配置については、引き続き保育士不足が喫緊の課題であり、適切な人員配置ができていないのが現状である。

自己評価
B

[自己評価判断理由] 担当課長

障がい児を支援する担当保育士（支援員）を可能な限りの人数を各施設に配置し、支援員と保育士の連携により、発達段階に応じた個々の支援を行うことができた。また、スムーズな就学へとつなぐため、関係機関や保護者との連絡調整ができた。

[教育長又は教育部長評価]

支援員を配置することでインクルーシブ教育の理念に沿った集団保育を行うことができた。また、関係機関と連携し適切な支援が行われ、スムーズな就学につなげることができたことを評価する。

基本目標	I	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	4	ニーズに応じた地域子育て支援の充実
事業名	1	一時保育事業（保育所）
担当課		幼保学校課

[事業概要]

保護者の勤務形態、傷病、出産等により一時的に家庭での保育が困難となる児童について一時的に保育所で預かる。

[目的]

対象： 一時的に家庭保育が困難となる就学前児童の保護者
(何を・誰を)

意図： 保護者の勤務形態、傷病、出産等により一時的に家庭での保育が困難となる児童を、一時的に保育所で預かることにより、保護者の子育てを支援する。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	5,775
財源	
国庫支出金	1,642
県支出金	1,642
その他	1,397
一般財源	1,094

[事務事業の活動実績]

5か所の市立保育所のうち1施設（五百川幼保総合施設 地域子育て支援センター）において、一時保育を実施した。

○一時保育利用児童数（延人数）

月	五百川幼保総合施設 (地域子育て支援センター)
4月	91
5月	99
6月	96
7月	114
8月	100
9月	120
10月	143
11月	133
12月	119
1月	99
2月	122
3月	132
合計	1,368

[事業の成果]

仕事、休養及び疾病などの理由により、家庭においての保育が一時的に困難となった乳児又は幼児を対象に一時保育事業を実施している。受入施設は、五百川幼保総合施設敷地内の子育て支援センターに集約している。

一時保育事業は、多様なニーズに対応した保育を実施し保護者の負担軽減に繋がっている。また、集団生活の経験が少ない幼児が集団生活に参加することにより、人とかかわる楽しさなど発達に必要な経験を得るための機会を提供することができた。

[課題・改善点]

一時保育利用者数の推移は年々増加傾向にあったが、今年度は前年度と比較し減少となった。これは保育所受け入れ数の増加が一つの要因として考えられる。今後さらに保護者ニーズを注視しながら、待機児童対応の一つとしても、一時保育事業の継続を図っていく。

自己評価	<p>〔自己評価判断理由〕 担当課長</p> <p>保育需要の多様化に伴い、様々な保護者の理由による受け入れ先として十分な体制をとることができている。一時保育については、五百川幼保総合施設にある子育て支援センターへ集約し実施し、緊急的利用者の受入も対応可能となっており、事業の目標の成果があげられたと考えられる。</p>
B	<p>〔教育長又は教育部長評価〕</p> <p>仕事や疾病などの保護者のニーズに応じ、緊急的対応として一時的な保育を実施している。これは、核家族化などに伴う保護者の負担軽減にもつながっており、子育て支援の充実に寄与できたものと評価する。</p>

基本目標	1	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	4	ニーズに応じた地域子育て支援の充実
事業名	2	延長保育事業（保育所）
担当課		幼保学校課

[事業概要]

保護者の就労形態の多様化に伴い、保育時間の延長を希望する保護者に対して延長保育を実施する。

[目的]

対象： 家庭で十分保育することができない就学前の児童の保護者
(何を・誰を)

意図： 保育士を配置して延長保育を実施することで、保護者が安心して就労できるようにする。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	29,381
財源	その他
	2,081
	一般財源
	27,300

[事務事業の活動実績]

5か所の市立保育所において、午後7時まで延長保育を実施した。

○延長保育延べ登録児童数
803人

[事業の成果]

保護者の就労形態の多様化に対応するため、保護者の勤務状況に応じて、午前7時からの早朝保育及び午後6時から7時までの延長保育を実施し、保護者が安心して子育てができる環境を提供し、ニーズに対応した子育て支援が図られている。

[課題・改善点]

延長保育事業のさらなる推進を図りながら、きめ細かい子育て支援サービスの充実に努めていく。

自己評価

B

[自己評価判断理由] 担当課長

保育需要のニーズの増大に伴い、様々な保護者の理由による受け入れ先として十分な体制をとることができている。延長保育については、継続して利用者のニーズに対応することができた。

[教育長又は教育部長評価]

就労環境の多様化及び女性の社会参画が進む中、保護者のニーズにより、早朝保育と延長保育を実施している。保護者が安心して就労できる環境を整えてることができたことを評価する。

基本目標	1	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	4	ニーズに応じた地域子育て支援の充実
事業名	3	預かり保育事業（幼稚園）
担当課		幼保学校課

[事業概要]

幼稚園の教育課程に係る教育時間終了後に在園児を保育する。

[目的]

対象： 在園児及び保護者
(何を・誰を)

意図： 通常保育より延長した保育により更なる幼児教育の推進及び、家庭で
(事業のねらい、対象をどう変えるのか) の育児が困難な世帯に対し子育ての支援を行う。

[事務事業の活動実績]

○実施状況

幼稚園名	登録園児数	利用延べ園児数	保育時間
五百川幼保総合施設	75 人	13,023 人	【基本利用】 ・通常保育後～午後6時 (土曜日・長期休業期間 は午前7時～午後6時) 【延長利用】 ・午後6時～午後7時
岩根幼稚園	55 人	10,865 人	
糠沢幼稚園	16 人	2,874 人	
和田幼稚園	17 人	3,121 人	
白岩幼稚園	19 人	3,352 人	
合計	182 人	33,235 人	

事業費・財源内訳

決算額	千円
	33,516
財源	
国庫支出金	5,337
県支出金	5,337
使用料及び手数料	12,898
その他	1,307
一般財源	8,637

[事業の成果]

幼稚園の教育時間（午後1時）を越え、保育に欠ける要件を有する園児を預かっている。
保育所と同様の子育て支援を実施することにより、保護者ニーズへの対応と就労支援が図られている。

[課題・改善点]

依然として保育士不足が課題であり、預かり保育担当の保育士（臨時職員）の確保には苦慮している状況である。

自己評価

B

[自己評価判断理由] 担当課長

保育ニーズの増大と多様化に伴い、様々な保護者の理由による受け入れ先として十分な体制をとることができている。預かり保育については、保育士の確保に苦慮しているが、今年度は利用者の増加に対応することができた。

[教育長又は教育部長評価]

就労環境の多様化及び女性の社会参画が進む中、保護者のニーズにより、幼稚園の預かり保育を実施している。保護者が安心して就労できる環境を整えてることができたことを評価する。

基本目標	1	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	4	ニーズに応じた地域子育て支援の充実
事業名	4	地域子育て支援拠点事業（センター型）
担当課		幼保学校課

[事業概要]

子育て世帯がつどう場を設け、子育て世帯の交流、子育て等に関する相談、援助、地域の子育て関連情報の提供などを行う。

[目的] 対象： 施設入所、入園していない子育て世帯
(何を・誰を)

意図：
(事業のねらい、対象をどう変えるのか) 子育て世帯の悩みや不安を解消する。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	910
財源	
国庫支出金	200
県支出金	200
一般財源	510

[事務事業の活動実績]

子育て支援センター月別利用人数

月	保護者数	幼児数	合計
4月	63	72	135
5月	81	89	170
6月	82	106	188
7月	60	72	132
8月	57	75	132
9月	71	85	156
10月	108	133	241
11月	114	151	265
12月	45	64	109
1月	54	68	122
2月	65	91	156
3月	56	78	134
合計	856	1,084	1,940

[事業の成果]

就園前の乳幼児を対象に「プレ幼稚園」の実施や「子育て相談」を実施し、保護者の子育てに対する悩みや不安の解消が図られている。

また、平日のセンター解放日や各イベントは、多くの子育て世代の交流機会となっており、家庭保育を行っている保護者の負担軽減及びリフレッシュの場となっており好評を得ている。さらに、保育経験の豊富な保育士が担当していることから、質の高い保育及び子育て支援が提供されている。

[課題・改善点]

子育て支援センターの積極的な利用促進PRを行い、事業のさらなる推進と充実を図っていく。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

家庭保育を行っている保護者に、子育ての情報発信や悩み等を相談する場を提供し、子育て支援や不安を解消することができた。利用者も年々増加傾向（前年比103%）しており、センター利用の認識も広がっている。

[教育長又は教育部長評価]

子育て支援センター事業が子育て世代に浸透し、年々利用者が増加している。家庭保育を行っている保護者が気軽に相談し利用できる施設として定着しており、保護者の交流の場と不安解消に寄与したものと評価する。

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	1	人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成
事業名	1	キャリア教育推進事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

児童、生徒が自らの将来像を考え、勤労観を養う等の取組みを行うため、講演等を行う。国内派遣交流事業として、全国へそのまちな加盟自治体へ小学生を派遣した。

[目的]

対象： 市内小中学校児童生徒
(何を・誰を)

意図： 児童生徒が将来への夢や職業を思い描き、その実現に向けて努力することができるようにする。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	2,674
財源	
県支出金	2,670
一般財源	4

[事務事業の活動実績]

- (1) 小学校・中学校におけるあいさつ運動
 - ・基本的な生活習慣の育成として「あいさつ運動」の定着化を図った。
- (2) 夢の教室事業
 - ・小学校5年生を対象に日本サッカー協会事業によるスポーツ選手等を招聘し、夢や挫折、目標を学ぶ教室を開催した。
 - 日 時：平成30年10月4日～平成31年2月7日 延べ11クラス
- (3) 国内派遣交流事業
 - ・郷土と異なる風土や文化に触れ、子ども達の交流を通じお互いの地域への愛着を深めあうと共に、郷土愛を育み、豊かな心や感性の醸成を図った。
 - 開催日時：平成30年7月29日～31日
 - 会場地：北海道富良野市
 - 参加児童：小学6年生7名（各校1名）

[事業の成果]

夢の教室においては、挫折、成功に関わらず、招聘した講師それぞれの、今に至るまでの体験談等が傾聴でき、児童の将来への夢や職業を思い描くための一助とすることができた。
国内派遣交流事業では、全国へそのまちな協議会加盟の北海道富良野市との児童間交流が実施できた。

[課題・改善点]

キャリア教育は、今後も児童にとってより有意義で魅力ある内容にするため事業を継続していきたい。
国内派遣交流事業においては、初めての児童間の交流事業であった。交流については、もっと深い交流ができる可能性があり、今後も創意工夫しながら事業を展開しなければならない。

自己評価
B

[自己評価判断理由] 担当課長

トップアスリートによる「夢の教室」の授業を開催し、将来の夢や職業への希望と、あきらめない強い意志をもつこと、挫折を乗り越えることの大切さなどを伝えることができた。
国内派遣交流においては参加児童の貴重な体験や仲間づくりをすることができた。

[教育長又は教育部長評価]

児童が将来の夢を描き、夢に向かって努力することは大切である。「夢の教室」は、夢を持つことの大切さや児童生徒の心に響く授業が行われ好評を得ている。
また、国内派遣事業は、郷土と異なる風土や文化に触れるなど貴重な体験をすることができたことを評価する。

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実										
基本施策	1	人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成										
事業名	2	体験活動促進事業										
担当課		幼保学校課										
<p>[事業概要]</p> <p>○スキー体験教室の実施</p> <p>[目的] 対象： 児童 (何を・誰を)</p> <p>意図： (事業のねらい、対象をどう変えるのか) 屋外運動の機会を創出し、運動不足を解消する。</p> <p>[事務事業の活動実績]</p> <p>・屋外運動機会が減る冬場に、スキー体験教室を開催し、運動を行う機会を創出した。</p> <p>○スキー体験教室 実施期間：平成31年1月～2月 対象：小学3年生～6年生 実施場所：あだたら高原スキー場</p>		<table border="1"> <tr> <th colspan="2">事業費・財源内訳</th> </tr> <tr> <td>決算額</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>10,519</td> </tr> <tr> <td>財源</td> <td></td> </tr> <tr> <td>県支出金</td> <td>10,519</td> </tr> </table>	事業費・財源内訳		決算額	千円		10,519	財源		県支出金	10,519
事業費・財源内訳												
決算額	千円											
	10,519											
財源												
県支出金	10,519											
<p>[事業の成果]</p> <p>スキー体験教室実施の機会を設け、各学校の実施計画により実施した。冬場の屋外運動機会を創出し運動不足解消や、ストレス解消の一助とすることができた。</p> <p>[課題・改善点]</p> <p>スキー体験教室については、参加児童の貴重な体験活動として位置付けているが、今後も事業継続のための財源確保に努めたい。</p>												
<table border="1"> <tr> <th>自己評価</th> </tr> <tr> <td>B</td> </tr> </table>	自己評価	B	<p>[自己評価判断理由] 担当課長 県の補助事業として、屋外での運動が制限される冬期間にスキー体験教室を開催し、運動機会の増加や貴重な体験活動につながった。</p> <p>[教育長又は教育部長評価] スキー体験教室を実施することにより、冬季間における児童の体力向上とに寄与できた。また、児童の貴重な体験として経験できたことを評価する。</p>									
自己評価												
B												

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	1	人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成
事業名	3	小学校読書活動推進事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

学校図書館における学習活動を充実するため、図書を購入する。

[目的]

対象： 小学校児童
(何を・誰を)

意図： 読書に対する興味を深め読書習慣を身につけることにより、日常生活に
(事業のねらい、対象をどう変えるのか) 必要な知識や幅広い想像力を高めるとともに、豊かな感性を養う。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	2,527
財源	
その他	900
一般財源	1,627

[事務事業の活動実績]

● 学校図書整備状況

学校名	図書購入等冊数	廃棄冊数	図書館保有冊数
本宮小	225	30	8,273
本宮まゆみ小	317	30	9,876
五百川小	212	0	5,923
岩根小	176	196	6,826
糠沢小	207	204	5,228
和田小	163	27	4,247
白岩小	200	353	5,601

(平成31年3月31日現在)

● 学校図書貸出状況

学校名	貸出冊数
本宮小	4,711
本宮まゆみ小	5,605
五百川小	4,401
岩根小	4,449
糠沢小	2,501
和田小	2,455
白岩小	2,135

[事業の成果]

図書館ネットワークシステムの活用によりスムーズな貸出業務が行われた。
しらさわ夢図書館事業のドリーム文庫の貸出や、出張おはなし会、ブックトークを併用し、本に接し親しむ機会を設け利用拡大を図った。

また、学校司書を2名体制とし、学校図書担当教諭との連携、さらに、市立図書館とも連携し、貸出、照会等、図書館業務の充実を図った。

[課題・改善点]

学校図書館図書標準の達成率は95%となり、前年度と比較し2ポイント上昇した。今後も新刊等の購入を継続し達成率の向上を図っていく。また、図書の選定は、児童が本に接する機会を増やすため、学校図書担当教諭と連携し学校の現状に応じた十分な検討を継続して行う必要がある。

自己評価
C

[自己評価判断理由] 担当課長

毎年計画的に図書を購入し、児童へ読書活動に寄与できている。また、読書習慣と豊かな感性を養うため、学校司書による読み聞かせや本の紹介をしており、本に興味を持たせることができたが、貸し出し件数は前年度と比較し減少した。達成率が成果指標の100%に達していないため「C」評価とした。

[教育長又は教育部長評価]

図書標準の達成率では、前年度より2ポイント上昇し100%に近づいていることを評価したい。しかし、貸し出し件数が減少するなど課題があるためC評価はやむを得ない。学校司書の配置や学校司書によるブックトークなど本に親しむ機会を設け、今後も工夫を継続させたい。

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	1	人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成
事業名	4	中学校読書活動推進事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

学校図書館における学習活動を充実するため、図書を購入する。
学校司書の活用により、効果的な学校図書館運営を図る。

[目的] 対象： 中学校生徒
(何を・誰を)

意図： 読書に対する興味を深め読書習慣を身につけることにより、日常生活
(事業のねらい、対象をどう変えるのか) に必要な知識や幅広い想像力を高めるとともに、豊かな感性を養う。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	6,071
財源	その他
	472
	一般財源
	5,599

[事務事業の活動実績]

● 学校図書整備状況

学校名	図書購入等冊数	廃棄冊数	図書館保有冊数
本宮第一中学校	237	1,682	8,584
本宮第二中学校	199	3	7,596
白沢中学校	228	0	5,648

(平成31年3月31日現在)

● 学校図書貸出状況

学校名	貸出冊数
本宮第一中学校	1,478
本宮第二中学校	1,453
白沢中学校	479

[事業の成果]

図書館ネットワークシステムの活用によりスムーズな貸出業務が行われた。
しらすわ夢図書館事業のドリーム文庫の貸出や、出張おはなし会、ブックトークを併用し、本に接し親しむ機会を設け利用拡大を図った。
また、学校司書を2名体制とし、学校図書担当教諭との連携、さらに、市立図書館とも連携し、貸出、照会等、図書館業務の充実を図った。

[課題・改善点]

学校図書館図書標準の達成率は87%となり、前年度と比較し8ポイント上昇した。今後も新刊等の購入を継続し達成率の向上を図っていく。また、図書の選定は、生徒が本に接する機会を増やすため、学校図書担当教諭と連携し学校の現状に応じた十分な検討を継続して行う必要がある。

自己評価

B

[自己評価判断理由] 担当課長

毎年計画的に図書を購入し、生徒へ読書活動に寄与できている。また、読書習慣と豊かな感性を養うため、学校司書による読み聞かせや本の紹介をしており、本に興味を持たせることができ、貸し出し件数も増加傾向にある。達成率が成果指標の100%に達していないため「C」評価とした。

[教育長又は教育部長評価]

図書標準の達成率では、前年度より8ポイント上昇し100%に近づいている。
また、学校司書の配置や学校司書によるブックトークなど本に親しむ機会を設けて利用拡大を図った結果、貸出し合計件数が増加して読書習慣を身につけることにつながったことを評価したい。よって、B評価としたい。

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実								
基本施策	1	人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成								
事業名	5	小学校文化芸術分野各種大会・交流行事参加事業								
担当課		幼保学校課								
<p>[事業概要]</p> <p>安達地方音楽コンクール・県小学校音楽祭等への参加や、各種文集コンクール等へ作品の出品を行う。</p> <p>[目的] 対象： 小学校児童 (何を・誰を)</p> <p>意図： 文化活動を通して情感あふれる表現や鑑賞の基礎となる力を身につける。 (事業のねらい、対象をどう変えるのか)</p> <p>[事務事業の活動実績]</p> <p>安達地方音楽コンクール等への参加に係る諸経費や負担金の支援を行った。</p> <p>[主な参加実績]</p> <p>●音楽コンクール</p> <p>①安達地区小中学校音楽祭</p> <p>【第1部合唱】(8月21日：二本松市民会館)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本宮小学校：金賞 ・本宮まゆみ小学校：金賞(県大会出場) ・五百川小学校：金賞 ・岩根小学校：銀賞 <p>②安達地区小中学校音楽祭</p> <p>【第2部合奏】(9月11日：二本松市民会館)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和田小学校：金賞(県大会出場) ・白岩小学校：銀賞 <p>③TBCこども音楽コンクール県大会</p> <p>【小学生合唱の部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本宮まゆみ小学校：優秀賞(東北大会出場) 		<p>事業費・財源内訳</p> <table border="1"> <tr> <td>決算額</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1,803</td> </tr> <tr> <td>財源</td> <td></td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td>1,803</td> </tr> </table>	決算額	千円		1,803	財源		一般財源	1,803
決算額	千円									
	1,803									
財源										
一般財源	1,803									
<p>[事業の成果]</p> <p>各学校の積極的な取り組みにより優秀な成績を収めることができた。 特に、TBCこども音楽コンクールにおいては、本宮まゆみ小学校が東北大会に出場した。</p> <p>[課題・改善点]</p> <p>各学校の特色を活かすことのできる支援体制を継続する。</p>										
<table border="1"> <tr> <td>自己評価</td> </tr> <tr> <td>B</td> </tr> </table>	自己評価	B	<p>[自己評価判断理由] 担当課長</p> <p>文化芸術等の各種大会に積極的に参加できるよう交通手段の支援を学校の希望どおり実施することができた。</p> <p>[教育長又は教育部長評価]</p> <p>各小学校とも積極的に各種大会に参加できるよう支援を行った。県大会・東北大会出場など活躍できたことは、児童の文化意識の高揚や心の成長につながるものであり評価する。</p>							
自己評価										
B										

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	1	人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成
事業名	6	中学校文化芸術分野各種大会・交流行事参加事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

安達地方音楽コンクール・県音楽コンクール等への参加や、中学校英語弁論大会への参加、各種文集コンクール等への出品を行う。

[目的]

対象： 中学校生徒
(何を・誰を)

意図： 文化活動を通して情感あふれる表現や鑑賞の基礎となる力を身につける。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	1,432
財源	
一般財源	1,432

[事務事業の活動実績]

安達地方音楽コンクールや文集コンクールへの参加に係る諸経費や負担金の支援を行った。

[主な参加実績]

●音楽コンクール等

①福島県吹奏楽コンクール県北支部大会（平成30年7月7・8日：とうほうみんなの文化センター）

- ・本宮第一中学校：金賞
- ・本宮第二中学校：銅賞
- ・白沢中学校：金賞

②安達地区小中学校音楽祭

【第1部合唱】（平成30年8月21日：二本松市民会館）

- ・白沢中学校：奨励賞

【第2部合奏】（平成30年9月11日：二本松市民会館）

- ・本宮第一中学校：金賞（県大会出場）
- ・本宮第二中学校：銀賞
- ・白沢中学校：銀賞

●英語弁論大会

①安達地区英語弁論大会（平成30年8月28日：しらさわカルチャーセンター）

【本宮第一中学校】

- ・暗唱の部：銀賞2名
- ・創作の部：金賞1名・銀賞1名

【本宮第二中学校】

- ・暗唱の部：金賞1名・銀賞1名

【白沢中学校】

- ・暗唱の部：銀賞2名
- ・創作の部：銀賞2名

●各種コンクール

①中学生の「税についての作文」コンクール

- ・白沢中学校 2年 東北地区納税貯蓄組合連合会会長賞
- ・白沢中学校 2年 二本松税務署長賞

②明るい選挙啓発ポスターコンクール

- ・白沢中学校 1年 文部科学大臣・総務大臣賞

[事業の成果]

各学校の積極的な参加により優秀な成績を収めることができた。
特に、明るい選挙啓発ポスターコンクールにおいては、福島県において12年ぶりとなる最高賞の文部科学大臣・総務大臣賞を白沢中学校1年生生徒が受賞した。

[課題・改善点]

各学校の特色を活かすことのできる支援体制を継続する。

自己評価

B

[自己評価判断理由] 担当課長

文化芸術等の各種大会に積極的に参加できるよう交通手段の支援を学校の希望どおり実施することができた。

[教育長又は教育部長評価]

各中学校とも積極的に各種大会に参加できるよう支援を行った。それぞれに優秀な成績を収め活躍できたことを評価する。

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	1	人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成
事業名	7	スクールソーシャルワーカー配置事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

中学校学区に2名のスクールソーシャルワーカー（SSW）を配置し、不登校やいじめ、暴力行為など子どもの深刻な問題行動や虐待、育児放棄及び経済的な困窮家庭などの保護者や子どもに対し、専門的な見地から学校と関係機関の仲介、個々の状況に応じた相談、助言を行う。

[目的]

対象： 小中学校児童生徒、保護者、教職員
(何を・誰を)

意図： 児童生徒や保護者には、スクールソーシャルワーカー（SSW）により悩みや不安、ストレスなどを和らげ、心の安定を図る。また、教員に関してはSSWの専門的なコンサルテーションにより問題解決の糸口を共に探る。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	8,783
財源	
国庫支出金	
	8,782
一般財源	1

[事務事業の活動実績]

教育委員会に専門知識を持つSSWを配置し、市内各幼稚園・保育所・小学校・中学校を巡回し、不登校・いじめなどを含めた児童生徒が抱える課題解決に資した。

諸問題								計
養育環境	長期欠席	いじめ	暴力行為	貧困	障がい	震災関係	その他1	
163	26	12	22	52	182	18	198	673

現状				計
課題解決	経過良好	支援途中	その他2	
34	123	134	85	376

校種別				計
就学前	小学校	中学校	その他3	
58	246	60	12	376

<項目説明>

○諸問題（複数該当）

養育環境…児童虐待、家族の情緒不安定、家庭内不和、DV、多子世帯、ハイリスク家庭など含む。

長期欠席…30日以上欠席者のほか、登校しぶり、別室登校など含む。

暴力行為…自傷他傷を含む。

貧困 …経済的困難さが諸問題にも影響を及ぼすもの。

障がい …知的・身体・情緒：発達・学習などの障害及びその疑いを含む。

震災関係…避難家庭及び震災の影響により諸問題に影響を及ぼしたことが明確なもの。

その他1 …いじめ以外の友人関係、教職員との関係、非行などを含む。

○現状

課題解決…一定程度安定して学校等での生活を送ることができ、主訴であった課題の解決が図れたもの。

経過良好…支援は継続しているものの、家庭、学校、関係機関等の尽力により、課題解決に向けた取り組みが順調に行われているもの。

支援途中…支援を継続し、家庭、学校、関係機関等との協働をさらに図っていく必要があるもの。

その他2 …卒業や転居により、支援が中断せざるを得ないもの。

○校種別

就学前 …市内外の公立私立幼稚園・保育所・療育機関に通う幼児。

その他3 …施設入所及び卒業後の生徒。

●にじいろひろば活動状況

長期休暇中においても継続的に支援が必要と感じられる子どもたちに、居場所を設け、切れ目のない支援を行い、新学期をスムーズに迎えられるよう「にじいろひろば」を開設する。

【夏休み】

参加者：55名

プログラム内容：全5回

- ・英語で遊ぼう「MOTOMIYAオリンピック」
- ・農場体験「動物や畑に親しもう」
- ・紙ひこうきコンテスト
- ・みんな大好き カレーの時間
- ・ラジオを作ろう
- ・にじいろカフェ（保護者対象）

アンケート結果：次年度参加意向

- ・児童生徒 62%（参加したい）
36%（来年になったら考えたい）
- ・保護者 100%（参加したい・都合がつけば参加したい）

【冬休み】

参加者：24名

プログラム内容：全2回

- ・農場体験「冬の農場で遊ぼう」、にじいろカフェ（保護者対象）
- ・あけましてキンボール

アンケート結果：次年度参加意向

- ・児童生徒 74%（参加したい）
26%（来年になったら考えたい）
- ・保護者 100%（参加したい・都合がつけば参加したい）

【事業の成果】

勤務形態である市教育委員会配置・巡回型を継続し、専門性や役割（認定心理士・社会福祉士）を活かした活動の充実を図った。特に、直接子ども・家庭・教員を支援するだけでなく、校内ケース会議への参加や校内支援体制の確立、長期休暇中の居場所作り（にじいろ広場）などの実践を行った。

教職員、児童生徒と保護者と関わる中で、信頼関係がより強固になり、課題・問題を関係者間で共通認識し、関係機関と連携を図りながら、多角的な支援につなげることができた。

早期発見・早期療育及び啓発・予防の視点から、就学相談を適切に行った。これにより、就学後に起こりうるであろう問題に未然に対応し、また、実際の支援についてもより円滑に進められるようにした。

教職員の異動に伴う相談支援体制に支障をきたさないよう、SSWの定期的な訪問により、適切な相談支援体制の継続を図っている。

【課題・改善点】

支援を必要とする児童生徒等の個々の案件は多種多様であり、潜在化及び長期化することも危惧される。支援方法等について検討する機会をより多く設けるため、学校における会議への参加や、関係各機関と共に連携できる体制を継続していきたい。学校と相談者の思いに齟齬が見られることもあったので、両者をよりよくつなげられるような働きかけを家庭訪問などにより解決している。

自己評価
A

【自己評価判断理由】担当課長

市が単独でSSWの通年雇用は、県内でも先進的な取り組みである。児童生徒や保護者の抱えるさまざまな問題、特に、ここ数年、家庭内暴力による問題が表面化しており、これらの早期発見や解決に向けて個々に応じた支援ができ課題解決の一助となっている。また、長期休業中の居場所づくり事業「にじいろ広場」も好評である。

【教育長又は教育部長評価】

児童・生徒が抱える問題は複雑化しており、保護者や教職員の関わりだけでは解決できない場合も多い。個々のケースに応じて傾聴し、寄り添い、信頼関係を築き上げ、問題解決に向けて最適な関係機関へつなぐSSWの業務成果は大いに評価できる。

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	1	人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成
事業名	8	学校復帰支援事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

様々な理由で登校ができない児童生徒に対して、学習指導や自立活動を支援することにより、学習や生活に取り組む態度や意欲を高めることを目的とする。支援方法として「適応指導教室（すまいる・るーむ）」を開催する。また、全児童生徒に対してQ-Uテストを年2回実施し、学校生活意欲や学級満足度から諸問題の未然防止・早期発見を図る。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	4,928
財源	
一般財源	4,928

[目的]

対象： 登校ができない児童生徒
(何を・誰を)

意図： 様々な理由で登校ができない児童生徒に対して、適応指導やカウンセリング、学力補充などの支援を行い、在籍校への復帰や社会的自立をどう変えるのか) 支援する。

[事務事業の活動実績]

プログラム内容

- ・4月中旬から3月中旬まで、月～金の週5日、午前10時～午後2時の開催。
- ・主に午前自主学習、午後は諸活動として美術、スポーツや調理実習などを実施。
- ・教室での活動のほか課外活動にも力を入れ、自然、郷土学習にも積極的に取り組んだ。

- 開催場所 中央公民館2階すまいるーむ
- 対象児童生徒数 5名
- 開催回数 194日
- 復帰人数 ・卒業（進学）0名 ・学校復帰（部分登校含む）3名
- その他支援状況
 - ・にじいろ通信でも、活動内容をより具体的に紹介したものを家庭並びに学校に配付した。
 - ・在籍校の担任や校長などが、教室を自由に訪れることで、児童生徒の所属感を維持した。
 - ・月毎に各児童生徒の出欠状況、学習や活動状況を在籍校へ報告した。
 - ・定期的に指導主事及びスクールソーシャルワーカー（SSW）が活動に参加したり、打合せや情報交換を行ったりした。
 - ・指導主事及びスクールソーシャルワーカーが児童生徒や保護者等との面談を行うことで、連携を密にし、支援を行うことができた。

Q-Uテストの実施（年2回）

- ・各小中学校の全児童生徒を対象に実施し、学級内の子どもたちの学校生活意欲や学級満足度を把握し、諸問題の未然防止・早期発見・諸問題の解決を図る。結果を踏まえて、各学校で改善についての方策、対応を検討し、学級経営に活かしている。

[事業の成果]

学校への訪問や保護者との教育相談などを通して、通級生に対するよりよい関わり方や、周囲の理解を深めていくことができた。

今年度より開設日を週5日とし指導員1名増員し3名体制で運営した。それぞれの得意分野を活かした幅を持たせた関わり・支援を実施し、個々のニーズに合わせた学習支援・体験活動・精神的ケアを行ない、児童生徒の意識向上を図ることができた。

[課題・改善点]

本事業は、適応指導教室への参加を通して、長期欠席者が学校復帰できるようになることや社会的に自立していくことを目標としている。しかし、児童生徒によって学校復帰への道のりは様々で、より個に応じた支援が必要になる。また、引き続き「適応指導教室」につなげていない長期欠席児童生徒に対して、学校や家庭と連携を図りながら、学習支援や自立支援、生活支援を促していく方法を継続して検討していく必要がある。

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;">自己評価</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 5px auto;">A</div>	<p>[自己評価判断理由] 担当課長</p> <p>登校が困難な児童生徒に対する復帰支援として、十分な支援ができていると考える。特に今年度から開設日を週3日から5日に拡大し実施し、できるだけ学校に近い生活リズムがとれるよう体制を整え、子どもたちも適応指導教室に参加することができている。</p> <p>[教育長又は教育部長評価]</p> <p>長期欠席児童生徒に対して、学校復帰支援や社会的自立の支援を行い、将来への希望にもつながる復帰プログラムとしての本事業は重要である。学校と家庭との連携による支援体制は、その実績からも評価に値する。</p>
---	---

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	2	思考力・判断力・表現力と課題解決能力の育成
事業名	1	学力向上対策事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

診断的学力検査、学年別知能検査、学習適応性検査を実施し、各校の特色に応じた学力向上プランを实践する。チャレンジ学習奨励補助事業として、漢字、算数・数学、英語検定受験補助を行い学力向上対策を図る。

[目的]

対象： 小中学校児童生徒
(何を・誰を)

意図： 学力検査及び知能検査等の調査及び、漢字、算数・数学、英語検定
(事業のねらい、対象を どう変えるのか) 料の補助を実施し、本市児童、生徒の基礎学力の向上を図る。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	5,479
財源	
一般財源	5,479

[事務事業の活動実績]

調査を実施し、調査結果を分析し、個々の学習状況に応じて学力向上に寄与した。

[主な活動]

・本宮市学力向上委員会を2度(5月、2月)計画し、その間は中学校区毎に随時研修会や授業研究会等を開き、授業力向上に努めた。

また、5回にわたって外部講師を招聘し、教職員を対象とした授業力向上に向けた研修会を開催し学力向上を図るための有効な手立てなどについて研究・協議を行った。年度末には、各種調査結果を受けて明らかとなった成果と課題から、次年度に取り組むべき方向性について各学校へ提案することが出来た。

・漢字検定、算数・数学検定、英語検定受験希望者に、一人1,000円を上限に受験料補助を行い児童生徒の学力向上対策の一助とした。

○チャレンジ学習奨励補助事業利用実績

児童生徒数	漢字検定 補助利用者数	算数・数学検定 補助利用者数	英語検定 補助利用者数	合計	合格率		
					漢字検定	算数・数学検定	英語検定
小学校	1,694	1,011	120	1,131	83%	85%	-
中学校	935	281	40	211	48%	90%	73%
合計	2,629	1,292	160	211	1,663		

[事業の成果]

平成30年度全国標準学力検査NRTの偏差値平均では、小・中学校とも全国平均を上回った。

チャレンジ学習奨励補助事業については、利用者数は、昨年度より増え全体の63%の児童生徒が利用した。合格率は次のとおりである。漢字検定：小学校83%・中学校48%、算数・数学検定：小学校85%・中学校90%、英語検定：(中学校のみ)73%であった。

教員の日々の授業力向上が学力向上に不可欠であることから、全教職員を対象に、年5回研修を実施し教職員の授業力と資質の向上を図った。

[課題・改善点]

教育基本計画(H26~H30)における全国標準学力検査NRTの目標偏差値は小学校54.0以上、中学校51.0以上である。今年度の全体の平均値は小学校が53、中学校が51であり小学校は目標値をやや下回った。アンダーアチーバーにおいて小学校は約7%、中学校は約17%となっており、学力の底上げを図る継続的な取組が必要である。

チャレンジ学習奨励補助事業については、利用者数63%を、さらに有効活用できるよう導きたい。

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">自己評価</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;">C</div>	<p>[自己評価判断理由] 担当課長 学力向上の目標偏差値は達成しているが、チャレンジ学習は受験者数が前年度より増加しているものの、目標値（80％）に達していない状況にあるためC評価とした。</p>
	<p>[教育長又は教育部長評価] 教育基本計画（H26～H30）における全国標準学力検査NRTの目標偏差値は、小学校がやや下回ってしまった。 また、チャレンジ学習として奨励している漢字検定や英語検定、算数・数学検定への児童生徒参加率は、昨年より増加したものの、目標値に達成しておらず、全体の63%であったことを踏まえると、C評価はやむを得ない。</p>

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	3	心身の健全な成長を目指す教育の推進
事業名	1	小学校児童健康づくり推進事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

体験的活動や豊かな心と確かな学力を育む学力の創造など、学校の特色を生かした健康づくり活動を支援する。

[目的] 対象： 小学校児童
(何を・誰を)

意図：
(事業のねらい、対象をどう変えるのか) 正しい生活習慣を身につけ、体力の向上を図る。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	1,400
財源	
県支出金	1,400

[事務事業の活動実績]

学校健康づくり推進事業補助金を小学校PTA団体に一律200,000円を交付し、豊かな心と確かな体力づくり活動の支援を行った。

学校名	主な事業内容
本宮小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の歯磨きについて指導を受け、自分の歯で食事を楽しみ、健康維持出来ることを学んだ。 ・ 児童の体力低下のため、スポーツ用品を購入し、体力・運動能力の向上を図った。
本宮まゆみ小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯磨き教室を開催し、むし歯予防のための歯磨きの方法を分かり易く学ぶことが出来た。 ・ 楽しみながら意欲的に運動し、児童が自ら進んで運動に親しむ態度や能力を身につけることが出来た。
五百川小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康に関する備品や教材を購入することで、児童の保健に関する知識理解の向上に役立った。 ・ スポーツテストを実施することで、自身の運動能力の実態を把握し、体育授業の見直しを図ることが出来た。
岩根小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種陸上大会の参加や校内マラソン記録会を行ったことで、体力向上につながることが出来た。 ・ 新体力テストのデータを分析し、その課題解決のため、体育授業に運動身体づくりプログラムの自校化を図った。
糠沢小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科衛生事業に取り組んだことで、全校児童が歯磨きの大切さについて、理解を深めることが出来た。 ・ 全校児童が自己の体力や運動能力について深い関心を持ち、進んで健康づくりができるよう教育環境の整備を進めた。
和田小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育関係の教材・教具等を充実させたことで、豊かな心と確かな学力を育む体力づくりと体育技能の習得を図った。 ・ 歯磨き指導の中で、歯の染め出しを体験することで、歯の健康づくりへの意欲向上を図った。
白岩小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保健衛生関係の物品購入に補助金を活用することで、児童の保健衛生に対する意識を育成することが出来た。 ・ スポーツ用品を購入し、走る環境を維持することができたことで安全面への配慮はもとより、運動意欲の向上へつながった。

[事業の成果]

健康に関する各種教室の開催、また、全学校で実施したスポーツテストの結果を踏まえた基礎体力作りに関する教材の購入等、学校の特色を活かした健康づくり活動を支援できた。

[課題・改善点]

体力テスト全体の結果を見ると、昨年度と比べ改善傾向がみられる結果であった。体力テストの「A・B」判定の占める割合は、前年度より2ポイント増加し40%と増加した。

自己評価

B

[自己評価判断理由] 担当課長

学校の実態に即した事業、歯科教室の開催や体力増進のための教材を購入している。体力テストの結果では、全体的には昨年を上回る結果となり、事業効果が表れている。

[教育長又は教育部長評価]

本事業の継続実施により、児童の体力向上や健康づくりに成果が見られ、体力テストの結果は昨年を上回る結果となった。また、体力テストの結果を基に基礎体力づくりなどに取り組んでおり評価する。

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	3	心身の健全な成長を目指す教育の推進
事業名	2	中学校生徒健康づくり推進事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

体験的活動や豊かな心と確かな学力を育む学力の創造など、学校の特色を生かした健康づくり活動を支援する。

[目的] 対象： 中学校生徒
(何を・誰を)

意図：
(事業のねらい、対象をどう変えるのか) 正しい生活習慣を身につけ、体力の向上を図る。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	600
財源	
県支出金	600

[事務事業の活動実績]

学校健康づくり推進事業補助金を中学校PTA団体に一律200,000円を交付し、豊かな心と確かな体力づくり活動の支援を行った。

学校名	主な事業内容
本宮第一中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・体力測定をデータ化し、個人ごとに可視化することで、生徒の体力向上と健康増進を進めることが出来た。 ・学校保健委員会等を通し、教師と生徒自らが自分自身の心身の健康について正しい知識を身につけ実践出来た。
本宮第二中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・全生徒を対象に実施したスポーツテストの結果を、体力・運動能力向上の指導に生かすことが出来た。 ・3年生に対しての性教育を、産婦人科の先生を講師に講演会を実施した。
白沢中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健委員会等を通し、教師と生徒自らが自分自身の心身の健康について、正しい知識を身につけることが出来た。 ・命・食事の大切さについて、保健指導・給食指導を通し、理解を深めることが出来た。

[事業の成果]

健康啓蒙に関する教室の開催、体力づくりに関する教材の購入を行い学校の特色を活かした健康づくり活動を支援できた。

[課題・改善点]

体力テスト全体の結果を見ると、昨年度と比べ体力の向上がみられる結果であった。体力テストの「A・B」判定の占める割合は、前年度より2ポイント増加し目標値50%を上回る51%と増加した。

自己評価
A

[自己評価判断理由] 担当課長

学校の実態に即した事業、健康教育事業の開催や体力増進のための教材を購入している。体力テストの結果では、目標値を上回る結果となり、事業効果が表れている。

[教育長又は教育部長評価]

本事業の継続実施により、児童の体力向上や健康づくりに成果が見られ、体力テストの結果では目標値を上回る結果となった。また、学校の特色を生かした体力づくりと健康づくりなどに取り組んでおり評価する。

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	4	子ども一人一人の障がいの状態や発達段階に応じた指導の充実
事業名	1	特別支援教育支援員配置事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

通常の学級に在籍しながらも特別な教育的支援を必要とするLD、ADHD等の障がいをもった児童生徒に対し、一人ひとりのニーズに適切に対応するため支援員を配置する。

[目的]

対象： 市内小中学校に在籍する障がいのある児童生徒
(何を・誰を)
 意図： 多動傾向等にある児童生徒や集団生活に馴染めない児童等の特別な教育的支援を必要とする児童生徒が、在籍校における生活、学習等様々な教育活動へ参加できるよう適切な対応を図る。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	29,646
財源	
一般財源	29,646

[事務事業の活動実績]

発達障がい、情緒障がい及び肢体不自由児童生徒への生活支援のため、一部を除く小中学校に特別支援教育支援員を16名配置した。

配置	本宮小	本宮まゆみ小	五百川小	岩根小	糠沢小	和田小	白岩小	本宮一中	本宮二中
	2	2	2	3	2	1	2	1	1

[事業の成果]

障がい等のある児童生徒に対して、適切に「特別支援教育支援員」を配置して、発達や実情を踏まえた、個々にあった支援を行なうことができた。

[課題・改善点]

インクルーシブ教育推進するにあたり、障がい等のある子どもが、十分に教育を受けられるための合理的な配慮及びその基礎となる環境整備をしていく必要がある。

限られた人数で、複雑で多種に及ぶ案件に対応するため、人材配置については増員の検討を行い、結果、前年度より2名増員の16名の配置ができた。しかし、依然として支援を要する児童生徒数に対応するための学校からの支援員の要求数は確保できていない。

自己評価

B

[自己評価判断理由] 担当課長

支援が必要な普通学級に通う障がい等のある児童生徒に対して、発達や実態を踏まえた個々にあった支援を行い、対象児童生徒は通常の教育活動へ参加をすることができた。支援員数は当初の計画通り16名全員を配置することができた。

[教育長又は教育部長評価]

インクルーシブ教育の実践のため、支援の必要な児童生徒に対して、市単独事業で特別支援教育支援員16名を配置し、個々の発達や実情を踏まえた支援を行うことができた。

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	5	震災の教訓を踏まえた地域とつながる特色ある教育の推進
事業名	1	小中学校学校教育事業等助成事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

各学校の特色を生かした学習活動を実施する小中学校PTA団体に対し、助成金を交付する。

[目的] 対象： 小中学校児童生徒、小中学校PTA団体
(何を・誰を)

意図： 地域の特性を生かした体験的活動や、豊かな心と確かな学力を育む
(事業のねらい、対象をどう変えるのか) 学習を展開し、児童生徒の健全で豊かな能力の向上を図る。

[事務事業の活動実績]

各小中学校PTA団体に対し、小中学校教育事業等補助金を交付した。

学校名	補助金額 (円)	主 な 事 業 内 容
本宮小学校	399,000	・生の芸術に触れることで、芸術に深い関心を持ち、豊かな人間性を育むことが出来た。 ・自然の中や公共施設で、普段の生活では体験できない活動を通し、公衆道徳等について学ぶことが出来た。
本宮まゆみ小学校	345,000	・各教科の授業用消耗品を整備することにより、日々の授業がより充実し、児童一人一人の学習意欲を高めることが出来た。 ・環境整備、美化で児童の豊かな人間性を伸長出来た。
五百川小学校	320,000	・校外見学学習の実施にあたり、ふるさと科学習の充実を図った。 ・新設した見守り隊において、パトロールベストを支出し子ども達の安全や見守り活動の充実を図った。
岩根小学校	443,000	・各種教科教材等の充実を図ることで、児童が興味、関心を持って授業に取り組むことが出来た。 ・見学学習等の体験学習を行うことで、児童の知識や理解思考力を高めることが出来た。
糠沢小学校	218,000	・表現活動や調べ学習の充実のため、消耗品を整備することで、児童の豊かな創造性の向上を図ることが出来た。 ・ICT機器を活用した教育活動を展開し、児童の興味、関心、意欲を引き出し、充実した学習を進めた。
和田小学校	154,000	・授業に必要な教材教具を充実させることで、児童の学習支援を図った。 ・総合的な学習時間における体験活動を通し、充実した活動が出来た。
白岩小学校	230,000	・教科指導に必要な教材教具を購入し、実験、実習を充実させることが出来た。 ・社会に開かれた教育課程の実現に向け、積極的に校外学習を実施した。
本宮第一中学校	1,380,022	・スポーツ及び文化的な活動への取組の充実を図った。 ・音楽や環境教育を通じた、情操教育の推進を行った。 ・修学旅行、見学学習、職場体験の充実を図った。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	6,025
財源	
一般財源	
	6,025

本宮第二中学校	1,410,276	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の用具購入や修繕により、充実を図った。 ・キャリア教育の一環として、外部講師による講演を開催し、充実を図った。
白沢中学校	1,126,000	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金の有効活用により、部活動の充実と精神も鍛えられ、教育目標の「心と体を鍛える生徒」が達成出来た。 ・キャリア教育事業として、講師の方に自身の経験等をお話いただき、生徒が自らの生き方を考え、将来に対する目標意識を持つことが出来た。

[事業の成果]

学校や地域の特性を生かした体験活動や講演会、豊かな心と確かな学力を育む学習活動の展開により、児童生徒の健全で豊かな能力の向上を図ることができた。
各学校、特色を生かした事業に取り組んでおり、児童生徒に対する指導も充実したものとなっている。

[課題・改善点]

P T A会員にも広く事業の目的及び成果を報告し、学校とP T Aが情報を共有しながら事業を継続していきたい。本事業を継続することで、各学校の教育事業を推進し、教育目標実現のための重要な事業として位置付けられる。

自己評価
B

[自己評価判断理由] 担当課長

各校それぞれの特色を生かした事業が展開できるよう補助金を交付した結果、教育目標実現のため、文化・スポーツ振興などあらゆる分野の教育事業を実施しており、児童生徒に対する学習支援と学習指導が充実したものとなった。

[教育長又は教育部長評価]

本事業は、各学校のニーズに即した多様な活用が可能であり、教育目標達成のための活動費として有効活用しており、教育活動の充実が図られていることを評価する。

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	5	震災の教訓を踏まえた地域とつながる特色ある教育の推進
事業名	2	通園通学支援事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

通園通学については、幼稚園は保護者の送迎、小学校は集団登校、中学校は徒歩又は自転車の基本とするが、通園通学に支援が必要な児童等に対する安全確保と負担の軽減を図る。

- [目的]** 対象： 通園通学の片道が概ね2キロメートル以上の園児・児童・生徒
(何を・誰を)
- 意図： 自転車通学者へのヘルメットの支給と通園通学バスの運行
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	38,431
財源	
使用料及び手数料	3,830
一般財源	34,601

[事務事業の活動実績]

●ヘルメット支給状況

学校名	支給数
本宮第二中学校	118個
白沢中学校	77個

●通園通学バス距離別利用者数

区分	距離				合計
	2km未満	2km以上4km未満	4km以上6km未満	6km以上	
小学校	5人	97人	14人	0人	116人
中学校	0人	69人	31人	19人	119人
合計	5人	166人	45人	19人	235人

[事業の成果]

通学に支援が必要な児童生徒に対する安全確保と負担の軽減を図った。

[課題・改善点]

委託業者で運行計画に基づき適正に運行している。今後も必要に応じ運行体制やコース等を検討し、通園通学の安全を確保しながらいかにコストを抑え本事業を継続していくことが重要である。

自己評価
B

[自己評価判断理由] 担当課長

地域の見守りの目が届かない白沢地区における支援の必要な児童生徒に対し、継続して通園通学バスを運行した。安全が確保され、保護者の安心と負担軽減が図られた。また、本宮第二中学校と白沢中学校の生徒に対しヘルメットの支給を行い、安全な通学の一助とした。

[教育長又は教育部長評価]

見守りの目が届かない白沢地区にはバスを運行し、自転車通学者には、ヘルメットを支給している。児童生徒の安全確保が図られたと評価する。

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	1	共に学び、一人一人が輝く生涯学習の推進
事業名	1	成人教育事業
担当課		中央公民館

[事業概要]

生涯学習のきっかけづくりや住民相互のコミュニケーションの場を提供し、趣味の多様化に伴い新しい内容の講座を設け、ニーズに応える。

[目的]

対象： 成人（市民、市内在勤者）
（何を・誰を）

意図： 生涯学習の興味を深めるとともに、豊かな人間性の醸成と資質、能力の向上を図る。
（事業のねらい、対象をどう変えるのか）

事業費・財源内訳

決算額	千円
	336
財源	
その他	112
一般財源	224

[事務事業の活動実績]

成人教育事業として、中央公民館並びに白沢公民館において各種成人講座を開催し、生涯学習の興味を深めるとともに、豊かな人間性の醸成と資質・能力の向上を図ることができた。

（中央公民館）

講座名	開設期間	回数	受講生	子ども	延べ数
もとみや歴史散歩	6月	1回	8人	0人	8人
おかずに添えるもう一品！	6月	1回	7人	0人	7人
きめこみパッチワーク	6月	2回	7人	0人	14人
アクアビクス教室	6月	4回	18人	0人	60人
なりきりタカラジェンヌ～舞台編	11月	2回	9人	0人	17人
初心者でもできる陶芸教室	11月	1回	13人	0人	13人
アクアビクス教室	11月	4回	24人	0人	81人
はじめての詩吟	11月～12月	4回	13人	0人	43人
おいしいコーヒーの淹れ方講座	11月	1回	14人	0人	14人
A L T と学ぶ楽しい英会話	11月～6月	8回	23人	0人	118人
合 計			136人	0人	375人

（白沢公民館）

講座名	開設期間	回数	受講生	子ども	延べ数
パソコン講座「ワード初心者編」	6月～7月	5回	5人	0人	25人
簡単ハンドメイド	6月～10月	4回	11人	0人	36人
はじめての川柳	6月～7月	3回	8人	0人	23人
大人のための国語教室	9月	3回	10人	0人	27人
はじめてのパソコン講座	1月	5回	5人	0人	25人
大人のための国語教室	1月～2月	3回	6人	0人	15人
英国文化とアフタヌーンティーに親しむ	11月	1回	12人	0人	12人
初・中級者向ソフトテニス教室	10月～11月	4回	8人	0人	29人
英国児童文学を原書で読もう！	2月	3回	17人	0人	43人
合 計			82人	人	235人

[事業の成果]

成人教育事業として、各種の講座を開催した中で、講座参加者により継続して活動を行う繋がりができ
るなど、生涯学習を通して地域住民のコミュニケーションの場を提供することができた。

また、市民のニーズを把握するためのアンケートや他自治体を参考にするなど情報の収集に努め多様な
講座を提供することができた。

[課題・改善点]

市民が生涯学習の興味を深めるとともに、豊かな人間性の醸成と資質・能力の向上を図ることができた
が、募集定数に満たない講座も見られたが、募集方法や広報活動に留意しながら、ニーズの掘り起こしを
行ったことにより、受講生数の増加が見られた。引き続き、趣味の多様化に応じた興味関心のある新たな
講座の開催に努めていきたい。

[自己評価判断理由] 担当課長

成人教育事業として、各種の講座を開催し、生涯学習を通して地域住民のコミュニ
ケーションの場を提供することができた。また、少ない経費で大きな成果を上げること
ができ、市民の成人講座開催の認識も定着しており、今後も取り組みを拡充していき
たい。

[教育長又は教育部長評価]

生涯学習へのきっかけづくりとして、アンケート等により情報収集し、多様な講座を
企画することができた。さらに、地域住民の学習の場の提供とコミュニケーションの場
を提供することができた。

自己評価

B

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	1	共に学び、一人一人が輝く生涯学習の推進
事業名	2	女性教育事業
担当課		中央公民館

[事業概要]

成人女性を対象とし、女性にとって身近な問題に関する内容の講座を開催する。

[目的] 対象： 成人女性
(何を・誰を)

意図： 教養・趣味・健康に関する内容を学習することにより、豊かな人間性の醸成と資質、能力の向上を図る。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

[事務事業の活動実績]

女性教育事業として、「レディースセミナー」の学級を開催し、健康・趣味・教養など幅広く学習し、楽しく仲間づくりをすることができた。

学級名	開設期間	回数	受講生	延べ数
レディースセミナー	6月～12月	6回	18人	87人

事業費・財源内訳

決算額	千円
	63
財源	
一般財源	63

[事業の成果]

講座内容については、受講生同士の話し合いで内容を決めており、受講生へのアンケートでは満足度が9割を超え、受講生のほとんどの方が次年度の受講を希望している。このことから、講座の内容としては、当初の目的である幅広い体験を通して、受講生それぞれが自分を見つめ学習する「自分磨き」の時間を持つことができたかと判断できる。

[課題・改善点]

成人女性が生涯学習の興味を深めるとともに、豊かな人間性の醸成と資質の向上を図るため、引き続き、趣味の多様化に対応しながら、成人女性の身近な問題に関する内容や興味関心のある講座の開催に努めていきたい。

また、継続参加者が多く、新規受講生が少ないことから、エフエムモットコムを通じて募集したが、周知方法については今後も工夫したい。

自己評価
C

[自己評価判断理由] 担当課長

働く女性のニーズに応えた幅広いメニューから学習会が開催され、学習会を通して学級生の交流を図るとともに、受講生同士の仲間づくりにも大きく寄与した。

一方、新規参加者が少ないことから、周知方法を再検討したい。

[教育長又は教育部長評価]

受講生同士の話し合いにより講座内容を決定していることから、自分を客観的に見つめ、自分を磨くための講座として満足度は高いものとなっている。しかしながら、受講生の固定化が見られるため、周知方法や講座内容の見直しと充実により、広く成人女性の興味関心を持つような事業展開の工夫が必要であり、C評価としたい。

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	1	共に学び、一人一人が輝く生涯学習の推進
事業名	3	高齢者教育事業
担当課		中央公民館

[事業概要]

各地区高齢者を対象とした長寿大学等を開設し、高齢者の身近な問題や教養・趣味等に関する内容についての講座を開催する。

[目的] 対象： 60歳以上の市民
(何を・誰を)

意図： 教養・趣味・健康に関する内容の学習をとおして社会参加と仲間づくりができ、生きがいをもちながら生き生きと心豊かに過ごせるように(事業のねらい、対象をどう変えるのか) する。

[事務事業の活動実績]

各地区高齢者を対象とした長寿大学等を開設し、高齢者の身近な問題や教養・趣味等に関する内容についての講座を開催した。

学級名	開設期間	回数	受講生	延べ数
本宮ふれあい塾	6月～12月	9回	17人	115人
新生大学	6月～12月	9回	17人	94人
青田地区長寿大学	6月～11月	5回	44人	107人
荒井地区長寿大学	6月～11月	6回	42人	196人
仁井田地区長寿大学	6月～11月	8回	25人	126人
高木地区長寿大学	6月～11月	8回	39人	178人
岩根地区長寿大学	6月～11月	8回	23人	131人

事業費・財源内訳

決算額	千円
	114
財源	
一般財源	114

[事業の成果]

家でも簡単にできる運動、料理作りや作品を製作した経験を生かして、友人に提供したりしている受講生も見受けられる。今まで経験したことのない事を学び、高齢者の生きがいづくりにつながられた。また事業を展開することにより、家に閉じこもりがちな高齢者が外に出る機会を多く提供できた。アンケートの結果をみるとおおそ満足している方が多かったが、アンケートをもとに新年度の事業を検討した。

[課題・改善点]

本宮ふれあい塾、新生大学は、ほとんどの方が入れ替わるが、各長寿大学は、新しい方の入会が少なく、ますます高齢化が進み、受講生が固定化してきている。

自己評価
B

[自己評価判断理由] 担当課長

高齢者教育事業として、各地区の高齢者の要望に応えた学習会が開催され、学習会を通して仲間づくり、生きがいづくりなど、楽しく心豊かな時間を提供することができた。また、講座の内容に満足している受講生も多く、受講生の数は安定しており、講座の認識も定着している。

[教育長又は教育部長評価]

アンケートの実施により高齢者のニーズに即した講座が開催されている。本事業は、高齢者の生きがいづくりや社会参加を促し、健康長寿にも寄与する大切な事業である。今後も創意工夫をしながら継続すべき事業である。

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	2	健康で活力ある人生につながる生涯スポーツの推進
事業名	1	市民競技力向上対策事業
担当課		生涯学習センター

[事業概要]

体育協会との協議に基づき競技力向上を目指す種目について専門家を招き、指導を行う。
(K I T A J I M A Q U A T I C S水泳教室の開催)

[目的] 対象： 市民全般
(何を・誰を)

意図：
(事業のねらい、対象をどう変えるのか) 市民個々の競技能力を高めるとともに、各種競技選手の育成を図る。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	458
財源	
一般財源	458

[事務事業の活動実績]

講師・団体等	経歴	対象者	回数
K I T A J I M A Q U A T I C S (講師：早坂勝也 茸本康隆 古金源太)	全国大会上位入賞等	小学生から一般	1回

○チャレンジコース 10:00～11:00

対象者：小学生
参加者数：14名

○アスリートコース・健康増進コース 14:00～15:00

対象者：小学生、中学生、大人
参加者数：小学生3名、中学生2名、大人14名

[事業の成果]

市民に一流アスリートからの指導を提供することを目的に水泳教室を開催した。
競技力の高さに合わせてコース分けを行い、それぞれの年齢や技術に対応した具体的なポイントを指導することで、泳力の向上やスポーツ推進に貢献した。

[課題・改善点]

水泳競技であったため、参加人数に制限ができてしまい、より多くの市民への機会提供ができなかった。予算の中で指導者レベルを考慮した選考を行い、複数回開催を目指すことが必要である。
大会等で記録を目指す小中学生から、水泳指導者、普段水泳を楽しんでいる方まで、幅広い層への指導をすることができた。

自己評価
B

[自己評価判断理由] 担当課長

参加人数は競技特性によるものであり、指導者数からは適正な参加人数であった。専門家による指導により、幅広い層の市民それぞれの泳力や指導力などが向上された。

[教育長又は教育部長評価]

一流アスリート等の指導による市民の競技力向上を目指している。今回開催の水泳教室では、小学生から大人までそれぞれのレベルにあった指導ができており、市民の競技力向上に資することができた。

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	2	健康で活力ある人生につながる生涯スポーツの推進
事業名	2	スポーツ推進委員活動事業
担当課		生涯学習センター

[事業概要]

市民に対しスポーツの普及と健康づくりの大切さの啓蒙を行うとともに、各種スポーツ大会運営の協力を行う。(定数20人以内)

[目的] 対象： 市民、スポーツ推進委員
(何を・誰を)

意図： 地域の身近な指導者として市民に対し指導助言を行い、個々の技術向上と体力向上の支援を行うとともに、地域のスポーツ・レクリエーションの普及、振興を図っている。

[事務事業の活動実績]

○活動実績

	事業名	活動人数【延べ】
1	ロードレース大会	15名
2	市民体力測定	13名
3	もとみや駅伝大会	11名
4	福島県スポーツ推進研究大会	7名
5	東北地区スポーツ推進委員研究大会	11名
6	福島県縦断駅伝大会	11名
7	市スポーツ推進委員研修会	15名
8	各種会議等(7回)	78名
	合計	161名

事業費・財源内訳

決算額	千円
	1,023
財源	
一般財源	1,023

[事業の成果]

市や市教育委員会が主催する大会、自主開催事業(市民体力測定会)など7事業(会議等を除く)に、延べ83名の委員が大会運営や役員協力を行った。また、市民体力測定会においては、より多くの市民が参加できる事業とするため、総合型スポーツクラブと連携し、バブルボール・スカットボール体験を同時開催した。

スポーツ振興について委員会で検討し、自主的に救命講習会へ参加しスポーツ現場での緊急時への対応などを学習した。

[課題・改善点]

委員20名を委嘱し各種事業の運営協力をいただいているが、委員それぞれが職業を持ち仕事に折り合いをつけながらの参加であるため、活動・参加状況に偏りがある。

事業参加の延べ人数および、各種会議等への参加数が改善され、スポーツ推進委員活動への積極的な参加の意思が向上した。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

事業の参加数が大きく昨年の倍以上増加したことや、積極的に救命講習会へ参加するなど、スポーツ推進委員の意識の向上が図られた。

[教育長又は教育部長評価]

主催事業の開催や各種大会への協力など、スポーツ推進委員の活動が充実してきている。今年度は特に、身近な指導員としての積極的な参加により、スポーツの振興が図られた。

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	3	「本と友だちになれるまち もとみや」を目指した活動の推進
事業名	1	しらさわ夢図書館運営事業
担当課		生涯学習センター（白沢公民館）

[事業概要]

住民の読書活動・情報活動の拠点として、読書活動の振興・活性化を図るために、図書館の適切な運営を行い、図書館資料を充実させ、利用者に必要な資料・情報の提供を行う。また「本宮市子ども読書活動推進計画」を実施するための具体的事業の企画・実施と広報活動を行う。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	11,885
財源	
その他	208
一般財源	11,677

[目的]

対象： 市民
(何を・誰を)

意図： 市民が、読書の楽しみや有益性を認知し、生活のあらゆる場面で図書館の資料が身近に活用できるような環境をつくる。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

[事務事業の活動実績]

- 市内幼稚園・保育所・小学校のおはなし会の開催にボランティアの協力を得ることで、読書推進活動のより一層の充実を図ることができた。
- 図書館資料購入 2,028件

【出張おはなし会開催状況】

開催日	開催場所	対象者数
5月 7日	どんぐり保育園	25人
5月18日	もとみや幼児の家	50人
5月22日	岩根小学校	132人
6月19日	五百川小学校	128人
6月20日	白岩小学校	51人
6月21日	糠沢小学校	44人
6月26日	本宮まゆみ小学校	54人
6月27日	本宮小学校	65人
7月 9日	糠沢幼稚園	40人
9月13日	白岩幼稚園	50人
9月19日	第3保育所	75人
9月20日	岩根小学校	131人
9月26日	白沢保育所	23人
10月 4日	和田小学校	20人
10月19日	和田幼稚園	40人
10月29日	本宮小学校	60人
11月16日	第3保育所	20人
11月20日	もとみや幼児の家	45人
12月 7日	岩根幼稚園	92人
12月13日	白岩幼稚園	42人
12月14日	五百川幼保総合施設	128人
1月16日	本宮まゆみ小学校	50人
1月17日	白沢保育所	82人
1月25日	和田幼稚園	39人
2月 7日	第1保育所	110人
2月19日	五百川幼保総合施設	105人
合 計		1,701人

【有効登録者数】

施設名	有効登録者数
図書館	9,478人
図書室	5,154人
移動図書館	3,424人
合 計	18,056人

【利用状況】

利用月	利用人数	貸出数	返却数
4月	1,171人	2,883件	2,806件
5月	1,755人	11,521件	3,215件
6月	1,941人	4,356件	3,954件
7月	2,668人	6,251件	5,878件
8月	2,689人	7,647件	7,698件
9月	1,848人	9,259件	8,631件
10月	1,783人	3,979件	3,928件
11月	2,171人	9,276件	7,843件
12月	1,676人	7,416件	8,166件
1月	1,472人	4,472件	4,577件
2月	1,766人	3,862件	3,824件
3月	1,966人	3,874件	11,682件
合計	22,906人	74,796件	72,202件

【蔵書冊数】 68,982冊

【廃棄冊数】 1,137冊

【事業の成果】

利用人数、貸出数、返却数、有効登録者数とも前年より微増となっているが、ここ3年間は、ほぼ横ばいといった状況となっている。

図書館・図書室・学校図書館のネットワークが構築されて6年を経過することから安定した運用となっている。また、図書館で養成している読書活動ボランティアとの連携、図書館協会との協議により利用サービスの向上に努めている。

【課題・改善点】

学校図書館運営・整備に対して、図書館のボランティアの依頼が増加したため、より多くの新しいボランティアを養成するための講習会を開催しており、継続して育成を図る必要がある。

学校図書館システムネットワーク化に伴い、各学校で購入した蔵書等の入力や装備業務に対応する人員の確保については、現在2名の学校司書の助力を得て対応しているが、物理的な流通方法については検討が必要である。

自己評価

B

【自己評価判断理由】 担当課長

学校図書館システムの稼働により、公共図書館から学校図書館への支援がより活発になり、児童・生徒の読書活動の活性化や学力の向上が期待できる。

市内保育施設・学校教育施設への積極的な活動支援を実施しており、読書習慣形成・読書活動の動機づけに寄与している。

【教育長又は教育部長評価】

学校司書の配置により、公立図書館と学校図書館のネットワーク環境が機能的に運用され、学校における読書活動が充実したものとなっている。また、図書活動ボランティアの協力による出張おはなし会の開催等により、読書習慣が形成され利用の向上が図られた。

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	4	学校と地域を結ぶ社会教育活動の充実
事業名	1	青少年健全育成推進大会事業
担当課		生涯学習センター

[事業概要]

地区青少年育成推進協議会や関係機関等からの協力を得て、各小中学校代表による「少年の主張」の発表と記念講演等を開催する。

[目的]

対象： 青少年、青少年を取り巻く全ての人
(何を・誰を)

意図： 青少年問題のもつ重要性を踏まえ、広く市民や青少年と関わりのある
(事業のねらい、対象をどう変えるのか) 人の理解と協力を得て、次代を担う青少年の健全な育成を図る。

[事務事業の活動実績]

○ 第12回本宮市青少年健全育成推進大会

(1) 開催日時：平成30年11月25日(日)

(2) 会場：サンライズもとみや

(3) 内容：○「少年の主張」作品発表(11名)

発表者	小学校の部	本宮小学校6年	佐川 一愛
		本宮まゆみ小学校6年	遠藤 亜子
		五百川小学校6年	小林 咲衣
		岩根小学校6年	阿部 孟眞
		糠沢小学校6年	安藤 僚
		和田小学校6年	市川 晟太
		白岩小学校6年	橋本 怜奈

	中学校の部	本宮第一中学校2年	中川 優姫
		本宮第二中学校2年	遠藤 愛結
		白沢中学校3年	渡辺真菜美

	高校生の部	本宮高等学校2年	大内 直人
--	-------	----------	-------

○ あいさつ 英国オリンピック委員会CEO
ビル・スウィーニー 様

○ 講演 「足と引き換えに得られたもの」
パラリンピック(チェアスキー)選手
鈴木 猛史 様

○ 大会宣言 本宮市教育委員会教育長 青田 誠

(4) 参加者：300名

事業費・財源内訳

決算額	千円
	46
財源	
一般財源	46

[事業の成果]

次世代の主役となる子供たちが、心豊かにたくましく成長できるよう、「本宮市青少年健全育成推進大会」の開催を通して、青少年健全育成の活動に対する市民の理解を深めるとともに、家庭・学校・地域社会及び行政が一体となった市民の総ぐるみ運動として青少年の健全育成を図ることができた。

[課題・改善点]

次世代を担う青少年の健全な育成を図るため、小中学校の理解と協力を得て、「本宮市青少年健全育成推進大会」を開催している。発表者の関係者以外の参加について、今後も多様な周知活動を行って、より多くの市民の参加を呼び掛ける必要がある。

自己評価 B	[自己評価判断理由] 担当課長 少年の主張・大会宣言など、青少年健全育成推進大会の開催を通じて、青少年健全育成の活動に対する市民の理解を深めるとともに、青少年の健全育成に寄与した。
	[教育長又は教育部長評価] 青少年健全育成推進大会の開催により、本事業の重要性が市民に浸透してきている。少年の主張における発表内容も充実しており、家庭、学校、地域、行政が一体となった市民総ぐるみ運動につなげ、青少年のもつ諸問題の克服につながるものと期待する。

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	4	学校と地域を結ぶ社会教育活動の充実
事業名	2	放課後子ども教室推進事業
担当課		生涯学習センター

[事業概要]

放課後に社会教育施設等を活用し、年間計画による一斉活動や子どもたちの要求に合わせた自由遊びの時間なども確保しながら活動指導員や安全管理員を配置し、子どもたちにスポーツ・文化活動などの体験活動を実施する。

[目的]

対象： 小学校児童
(何を・誰を)

意図： 放課後等の子どもたちの安全で健やかな活動場所の確保を図るとともに、地域の人々と触れ合うことにより、考える力や社会のルールが身につくなど健全な育成が図れる。

[事務事業の活動実績]

放課後の子どもたちの安全で健やかな活動場所の確保を図るとともに、地域の人々と触れ合うことにより、考える力や社会のルールが身に就くなど健全な育成が図られた。

1. 本宮市遊友クラブ運営委員会の設置

- 運営委員会の開催 (2回開催・委員16名)
- コーディネーターの配置 (本宮地区3名・白沢地区1名)
- 1クラブ当り係員の配置 (活動指導員2～3名・安全管理員2～3名)

2. 実施状況(7ヶ所)

クラブ名	対象校	実施場所	曜日	児童数(名)	係員登録(名)
もとみや遊友クラブ	本宮小学校	本宮小学校	金	62	21
まゆみ遊友クラブ	本宮まゆみ小学校	本宮まゆみ小学校	木	46	17
ごひゃくがわ遊友クラブ	五百川小学校	五百川小学校	水	38	19
いわね遊友クラブ	岩根小学校	岩根地区公民館	水	24	11
ぬかざわ遊友クラブ	糠沢小学校	糠沢分館	木	40	8
わだ遊友クラブ	和田小学校	和田分館	水	33	12
しらいわ遊友クラブ	白岩小学校	白岩コミュニティセンター	月	37	14
合 計				280	102

3. 参加状況

クラブ名	実施回数	参加児童(延べ数)	参加係員(延べ数)
もとみや遊友クラブ	29	1,798	150
まゆみ遊友クラブ	30	1,380	150
ごひゃくがわ遊友クラブ	32	1,216	160
いわね遊友クラブ	32	768	160
ぬかざわ遊友クラブ	30	1,200	120
わだ遊友クラブ	30	990	161
しらいわ遊友クラブ	29	1,073	145
合 計	212	8,425	1,046

[事業の成果]

各遊友クラブでは、地域の方々と触れ合う機会を大切にしながら、地域の特性を活かした様々なプログラムにより活動しており、放課後の子どもたちの安心安全な居場所として、参加している子どもや保護者、または地域の方々から好評を得ている。

[課題・改善点]

児童が減少傾向にもかかわらず、参加児童が増えており、それらに対応するため、活動指導員や安全管理員の確保が重要となってきている。安定したクラブ運営を継続していくため、引き続き係員の募集と確保により人材の育成に努めていきたい。また年々スタッフが高齢化している。参加児童の保護者等にスタッフとして協力していただけるようにしたい。

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 60px; margin: 0 auto;">自己評価</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 60px; margin: 5px auto; text-align: center;">B</div>	<p>[自己評価判断理由] 担当課長</p> <p>保護者及び地域の方々の理解をいただき放課後の安全安心な居場所として定着している。限られた時間の中で、子どもたちが安全に有意義に過ごせるよう工夫されたプログラムで実施されている。</p>
	<p>[教育長又は教育部長評価]</p> <p>放課後の児童の安全で安心な居場所づくり事業として定着しており、保護者から好評を得ている。地域の人々との触れあいを大切にしながら、さまざまな活動を展開していることを評価する。</p>

事業費・財源内訳

決算額	千円
	3,215
財源	
県支出金	3,215

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	5	文化や芸術に親しみ活動する機会の充実
事業名	1	文化芸術行事開催事業
担当課		生涯学習センター

[事業概要]

文化への興味と参加意識を向上させるため、優れた舞台芸術や映画の鑑賞を提供する。
また、スポーツの実技指導の機会を市民に提供する。

[目的]

対象： 市内小・中学校の児童生徒、一般市民
(何を・誰を)
意図： 優れた芸術や映画の鑑賞などを通して、知識や教養を深め、情操豊かな市民を育成するとともに、市民の生涯学習を推進する。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	2,893
財源	
その他	1,615
一般財源	1,278

[事務事業の活動実績]

○各種事業

(1) 文化・スポーツ振興基金事業（市民のための芸術鑑賞実行委員会補助金）

内 容	「クリスマスコンサート 井上あずみ&ゆーゆファミリーコンサート」
開 催 期 日	平成30年12月15日（土）①午前11時～ ②午後2時～
来 場 者	午前：366人 午後：252人
会 場	サンライズもとみや 大ホール
補 助 事 業 者	市民のための芸術鑑賞実行委員会
事 業 費	1,608,225円

内 容	「ミュージカルKINJIRO～本当は面白い二宮金次郎～」
開 催 期 日	平成30年7月1日（日）14時開演
来 場 者	379人
会 場	サンライズもとみや 大ホール
補 助 事 業 者	市民のための芸術鑑賞実行委員会
事 業 費	138,355円

(2) みんなの作品展（主催事業）

内 容	趣味や講座等で制作した作品の展示
開 催 期 日	平成30年11月30日（金）～12月6日（木）7日間
出 品 内 容	出展者/市民・市内勤務者82人 作品数130点 来場者354人
会 場	中央公民館 展示ホール、第2研修室、第3研修室

(3) 芸術鑑賞教室公演委託事業（主催事業）

幼児から小学生まで成長段階にあわせた芸術鑑賞教室を開催し、舞台の楽しさを体験することができた。

内 容	幼保芸術鑑賞教室公演「ジャックとふしぎな豆のつる」
開 催 期 日	平成30年9月10日（月）～9月13日（木）
参 加 者	441人
会 場	保育所、幼稚園8カ所
事 業 費	482,760円

内 容	小学校芸術鑑賞教室公演「楽しいプラスカーニバルがやって来た！」
開 催 期 日	平成30年9月6日（木）①10時20分～ ②13時30分～
参 加 者	389人
会 場	しらさわカルチャーセンター
事 業 費	432,000円

(4) 文化活動支援事業補助金

内 容	「クリスマスコンサート 井上あずみ&ゆーゆファミリーコンサート」
開 催 期 日	平成30年12月15日(土)
来 場 者	618人
会 場	サンライズもとみや 大ホール
補 助 事 業 者	市民のための芸術鑑賞実行委員会
補 助 金 額	1,218,224円

内 容	2018年第6回カナリヤ映画祭
開 催 期 日	平成30年9月15日(土)～16日(日)
参 加 者	200人
会 場	サンライズもとみや
補 助 事 業 者	本宮の映画文化を継承する会
事 業 費	100,000円

(5) 本宮市民俗芸能大会実行委員会補助金

内 容	本宮市民俗芸能大会
開 催 期 日	平成30年12月2日(日)
来 場 者	650人
会 場	しらさわカルチャーセンター
補 助 事 業 者	本宮市民俗芸能大会実行委員会
補 助 金 額	1,000,000円

(6) もとみやかるた大会補助金

内 容	第6回もとみやかるた大会
開 催 期 日	平成30年9月29日(土)
出 場 者	136人(来場者344人)
会 場	サンライズもとみや
補 助 事 業 者	本宮むかしむかしの会
補 助 金 額	200,000円

[事業の成果]

子どもから大人まで年代層に合わせた、優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供し、市民の文化芸術活動に対する意識向上が図られた。特に今年度は、本宮市としてははじめて宝くじ事業に採択され、わらび座(秋田県)のミュージカルを実施することができた。事業費をかけることなく市民に本格的な舞台芸術を楽しむ機会を提供することができた。

[課題・改善点]

多彩な文化芸術行事を開催し、各事業ともほぼ目標とする参加者や観覧者の来場があり、文化振興に成果を上げることができた。今後も各事業についてアンケートを実施したり、実行委員会等の関係者との協議を行い、次年度の事業開催に市民のニーズを反映させた事業を実施したい。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

多彩な文化事業を行っており、参加者や観覧者が満足できる事業を実施することができた。文化・スポーツ振興基金事業では、毎年さまざまな分野での企画を実施しており、市民の期待度も高いが、今年度は家族みんなで楽しめる事業を実施することができた。

[教育長又は教育部長評価]

子どもから大人まで楽しめる優れた舞台芸術などを通して、市民の感性を刺激する事業がそれぞれに成功裏に展開できたものと評価する。

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	6	本宮市の歴史と文化の継承と発信
事業名	1	文化財・史跡保存事業
担当課		生涯学習センター

[事業概要]

文化財保護法、本宮市文化財保護条例などに基づき、歴史的価値の高い文化財についての管理、調査、指定、公開、愛護思想の普及啓発、保存修理を行う。

[目的] 対象： 国登録文化財、県・市指定文化財
(何を・誰を)

意図： 貴重な指定文化財・史跡を適切に管理保存し、後世に伝え遺す。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	575
財源	
その他	6
一般財源	569

[事務事業の活動実績]

文化財保護法、本宮市文化財保護条例などに基づき、歴史的価値の高い文化財についての管理、調査、公開、愛護思想の普及啓発、保存修理のための事業を行った。

- 文化財看板設置及び修繕
指定文化財案内板及び史跡・名勝などの説明板修繕（1箇所） 49,680円
・「浮島神社の大櫓」
- 文化財水質検査事業
・「岩井の清水」 ・「わんだの清水」 ※検査結果は異常なし 21,600円
- 指定文化財剪定
・「仁井田 寺下のかさ松」 54,000円
- 文化財史跡草刈り
・「人取橋古戦場」 ・「功土壇」 19,624円
- 指定天然記念物樹勢回復事業
・宮久保の大桜・塩ノ崎の大ザクラ・仁井田のモミジ・碓森のツバキ 420,120円

[事業の成果]

文化財看板の修繕事業については、年次計画に基づき修繕を実施した。指定天然記念物の樹勢回復事業については、今年度は3件を実施し、来年度の事業実施に向けて準備を進めることができた。国登録有形文化財の美装化事業については国庫補助(1/2・1,300万円)を受けて蛇の鼻御殿本館で実施し、建造物の保存を図ることができた(残り1/2は事業者負担)。

[課題・改善点]

指定文化財以外の文化財の看板の整備についても、観光的側面から要望があり、検討課題である。また、天然記念物について、近年衰弱している樹木が多くなっているようであり、早急な対応が求められている。

自己評価

B

[自己評価判断理由] 担当課長

文化財の保存や活用事業として、看板の修繕や天然記念物の樹勢回復事業など貴重な指定文化財を後世に継承するために適切な保存管理事業を実施することができた。また国登録有形文化財である蛇の鼻御殿については、美装化が図られ貴重な建造物の保存が図られた。

[教育長又は教育部長評価]

指定文化財等の保存について、計画的に進めることができています。今年度は特に国登録有形文化財である蛇の鼻御殿の建造物の保存が図られた。また、埋蔵文化財の保存については、開発事業者に対し適切な情報交換が望まれる。

基本目標	IV	安全で安心して学べる教育環境の確保
基本施策	1	安全な教育施設の整備
事業名	1	学校施設等耐震化推進事業
担当課		教育総務課
[事業概要]		市内の学校施設で昭和56年以前に建築された2階建て以上もしくは1棟の面積が200㎡以上のすべての施設について、耐震診断を行い、その結果に基づき耐震化工事を行う。
[目的]		対象： 第2保育所・第3保育所 (何を・誰を) 意図： 地震で倒壊しない、幼児が安心して過ごせる施設にする。 (事業のねらい、対象をどう変えるのか)
[事務事業の活動実績]		学校施設等耐震化計画に基づき、耐震化が未整備の第2保育所及び第3保育所の耐震化を図るため、第3保育所の建設に係る実施設計業務を平成29年度から平成30年度の期間で委託し、次年度の開所に向け第3保育所の建設工事を発注した。また、第2保育所は現在地での建替えとなるため、解体及び建設に係る実施設計業務を発注した。
取組内容		
【第3保育所】		
○設計業務委託概要		構造規模：鉄骨造 地上1階建て 延床面積 1,000㎡ 地質調査ボーリング業務 30.0m
○建設工事概要		構造：鉄骨造、平屋建て、面積：建築面積 1,187.66㎡ 延床面積 1,080.85㎡ 建築主体工事：建築本体工事・外構工事（擁壁工、排水構造物工、舗装工、防護柵工、植栽工、スロープ工） 機械設備工事：冷暖房設備、床暖房設備、換気設備、衛生器具設備、給排水設備、給湯消火設備、ガス設備 電気設備工事：電灯設備、非常灯、誘導灯、コンセント設備、床暖房、受変電設備、幹線動力、構内情報設備、音響設備、拡声呼出設備、テレビ共聴、自火報、外灯設備
【第2保育所】		
○設計業務委託概要		建設工事 構造規模：鉄骨造 地上1階建て 延床面積 1,060㎡ 地質調査 10.0m×2カ所 解体工事 構造規模：鉄骨造 地上1階建て 延床面積 748㎡
[事業の成果]		学校施設等耐震化推進計画に基づき、耐震化を図るため第3保育所の建設工事を発注し、令和元年度の開所に向け、明許繰越を行い工事を施工している。 また、令和2年度に施工予定の第2保育所解体・建築工事の設計業務を明許繰越を行い設計している。
[課題・改善点]		建設資材不足や工事単価・労務単価等の上昇が続いており、工事の施工や事業費への影響が懸念される。
自己評価	[自己評価判断理由] 担当課長	
	学校施設等の耐震化計画に基づき、それぞれの保育所の改修作業が適正に進められている。今後も建設業界の状況を注視しながら進めていきたい。	
B	[教育長又は教育部長評価]	
	学校施設等耐震化推進計画に基づき、耐震改修工事が予定通りに進められており、児童生徒の安全確保と教育環境の向上が図られている。	
事業費・財源内訳		決算額 千円 216,328 財源 市債 178,800 その他 37,528

基本目標	IV	安全で安心して学べる教育環境の確保
基本施策	2	安全・安心な教育環境の確保
事業名	1	学校給食放射性物質検査事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

給食の食材検査を実施する。

[目的]

対象： 学校給食
(何を・誰を)

意図： 安全安心に提供する。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	9,951
財源	
国庫支出金	1,031
一般財源	8,920

[事務事業の活動実績]

・セシウム134とセシウム137の合算値が10Bq/kg未満を独自基準値として毎食測定を実施する。

(※国の一般食品中の放射性物質の規制値は100Bq/kg)

・10Bq/kgを超えた食材数 . . . なし

[事業の成果]

各施設で実施している学校給食の測定について、食材毎、1食丸ごと、1食分検査を行い市独自基準である10ベクレル未満であることを確認し、安全安心な給食提供を行った。

[課題・改善点]

検査事業は、給食センターが平成24年2月から、自校給食は同年4月から開始している。開始から現在まで市独自基準の10ベクレルを超えた結果はない状況にある。今後、保護者の安心を確保することと合わせ、市の放射線アドバイザーの意見を参考にし、検査全体の見直しの検討を進める。

自己評価

B

[自己評価判断理由] 担当課長

食材ごと、1食丸ごとの放射性物質検査を毎食実施し、市の独自基準を超えることなく安全安心な給食を提供することができている。また、市のホームページに公表することで、保護者の不安解消につながっている。

[教育長又は教育部長評価]

市の独自基準（10ベクレル未満）による放射性物質検査を継続的に実施し、児童生徒と保護者の安全・安心を確保できたと評価する。

事業名	教育委員会運営事業
担当課	教育総務課

[事業概要]

地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき設置された教育委員会を運営し、教育行政を合議し執行する。

[目的]

対象： 市民、教育行政
(何を・誰を)

意図： 教育委員会の会議を開催し、教育に関する様々な施策を検討、決定
(事業のねらい、対象をどう変えるのか) することで本市教育行政の充実と向上を図る。

事業費・財源内訳

決算額 千円
1,794
財源
一般財源
1,794

[事務事業の活動実績]

1. 教育委員会の構成 5名（教育長、教育委員4名）

2. 教育委員会開催状況（開催日、議案等の内容）

会議名	期 日	出席者数	議 案 等 の 内 容					合 計
			人 事	施 策	条例規則	予算決算	その他	
定例会	30. 4.26	5	5	2	4		11	22
定例会	30. 5.24	5	2	1	3	1	3	10
定例会	30. 6.22	5			1		12	13
定例会	30. 7.18	5	1	1			6	8
定例会	30. 8.22	5		1		2	9	12
定例会	30. 9.19	5					10	10
臨時会	30. 9.28	3			1			1
定例会	30.10.19	5					12	12
定例会	30.11.27	5				1	6	7
定例会	30.12.18	5					4	4
定例会	31. 1.17	5		1	1		5	7
定例会	31. 2.25	5	1	1	9	2	5	18
臨時会	31. 3. 5	5	1					1
定例会	31. 3.27	5	6		2		5	13
合計	14回		16	7	21	6	88	138

3. 学校訪問実施状況

小中学校、幼稚園、保育所全施設を訪問し、学校経営及び教育活動概要、学校課題等の現状把握と要望の聞き取りを行い、教育活動の支援に努めた。

期 日	出席者数	訪 問 先
30. 6.15	5	五百川小学校、五百川幼保総合施設
30. 6.19	5	本宮まゆみ小学校
30. 6.25	5	白沢中学校
30. 9.10	4	糠沢小学校、糠沢幼稚園
30. 9.18	4	本宮第一中学校
30. 9.25	4	第1保育所、第2保育所、本宮小学校
30. 9.28	5	白沢保育所、白岩幼稚園、白岩小学校
30.10.12	4	岩根幼稚園、岩根小学校
30.10.18	5	和田幼稚園、和田小学校
30.10.24	5	第3保育所、本宮第二中学校

4. 視察研修の実施

東北六州市町村教育委員会連合会教育委員・教育長研修会に参加し、他市町村教育委員等との交流及び情報交換を行った。

研修月日：平成30年7月12日（木）～13日（金）

研修会名：平成30年度東北六州市町村教育委員会連合会教育委員・教育長研修会

研修会場：山形県山形市 山形テルサ「テルサホール」

[事業の成果]

教育委員会定例会については、市の防災無線を通して会議の傍聴を呼びかけ、また、会議録を市のホームページに公開するなど、教育委員会の透明化を図った。学校訪問においては、教育委員・教育委員会事務局職員と教職員との懇談の場を設け、現場の声を聞き取り、教育環境等の予算確保に努めた。視察研修では、本市で整備を検討している全天候型グラウンドの視察を研修会の参加と併せて実施した。

[課題・改善点]

教育委員会定例会会議録の公開をスムーズに行い、更なる教育委員会の透明化を図っていきたい。また、今までは視察研修を東北六州市町村教育委員会連合会研修会時に併せて行っていたが、教育委員の知見を広めるため、研修会とは別に先進地視察研修を実施できるよう要望していきたい。

自己評価
B

[自己評価判断理由] 担当課長

教育委員会開催については、防災無線やFMを通して情報提供に努め、会議録を市ホームページにおいて公開し、広く市民にお知らせすることで透明化が図られた。
また、学校訪問の実施により、教育委員会として教育現場の状況を的確に把握することができ、効果的な予算の作成をすることができた。

[教育長又は教育部長評価]

教育行政の中立性と安定性の確保、指導行政の重視、教育行政と一般行政の調和、生涯学習など教育行政の一体的推進により、「つながる共育のまち もとみや」の実現に向けた委員会活動が行われた。